

『心を育てる』感動コミック VOL.3

一人ひとりに未来を創る力がある

# テラソルネツサンスⅠ



# 生きる力が湧いてくる...

「今、やっている活動は、お金を払ってでもやりたいんです」と言っていた鬼丸昌也。すげーヤツです。

てんつくマン



『心を育てる』感動コミック VOL.3

一人ひとりに未来を創る力がある

# テラ・ルネッサンスⅠ



作：田原 実 画：西原 大太郎







『心を育てる』感動コミックは、  
思いやりと感動の創造を  
サポートしたいと願っています。



## 『心を育てる』感動コミック VOL.3

# 一人ひとりに未来を創る力がある テラ・ルネッサンスⅠ

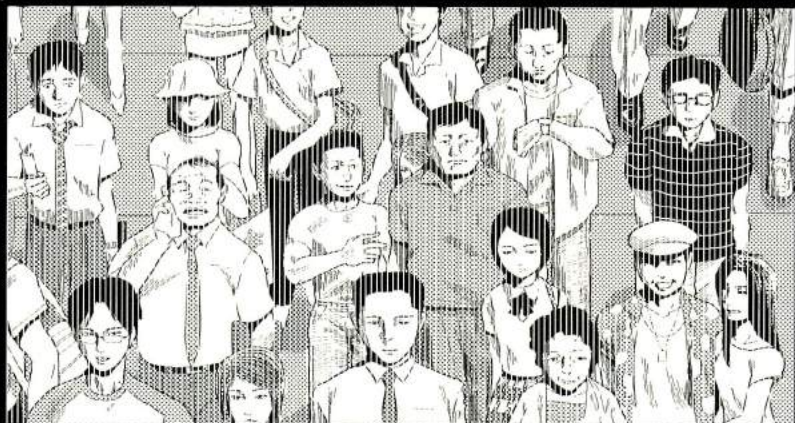
### 【目次】

---

< 第一話 > 子ども兵 .....	13
< 第二話 > 理事長 鬼丸昌也 .....	45
< 第三話 > ウガンダ駐在代表 小川真吾 .....	69
< 第四話 > ウガンダからのメッセージ .....	145



## 第二次世界大戦後



## 平和な時代が続く日本



しかし 世界では





同じ空の下で、戦争や紛争が  
絶え間なく続いている



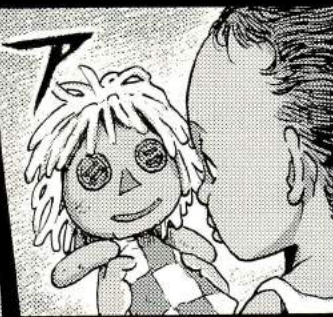
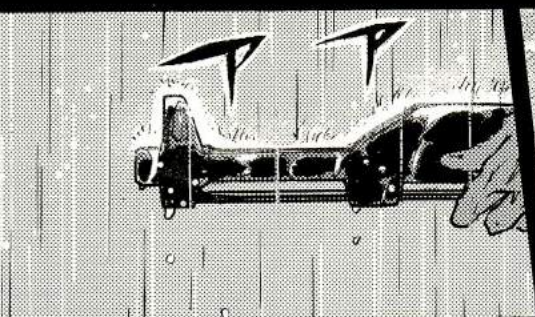
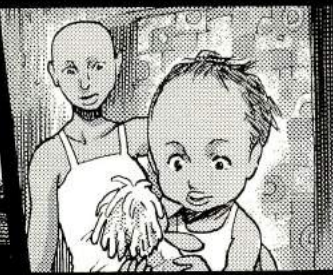
現在 世界には









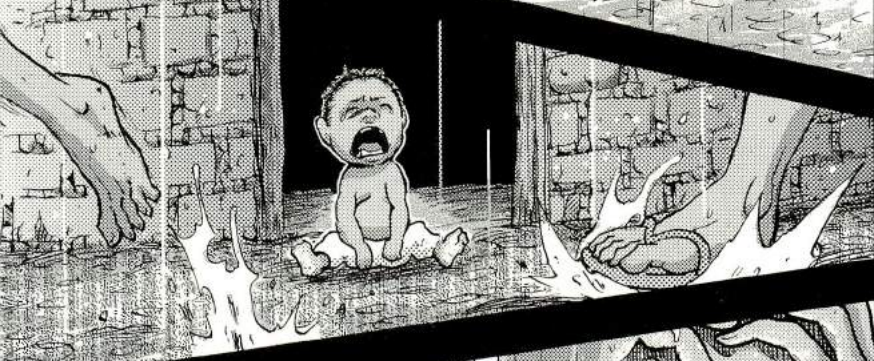




約30万人の子ども兵が  
存在している







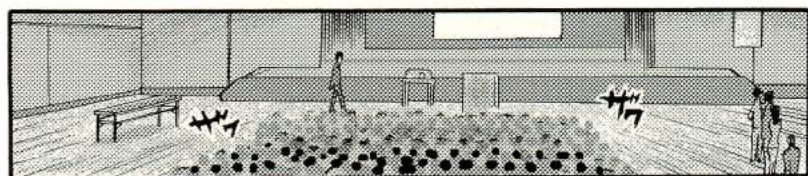





# 1. 子ども兵












みなさん、  
こんにちは。



特定非営利活動  
(NPO)法人  
テラ・ルネッサンスで  
理事長をしています。

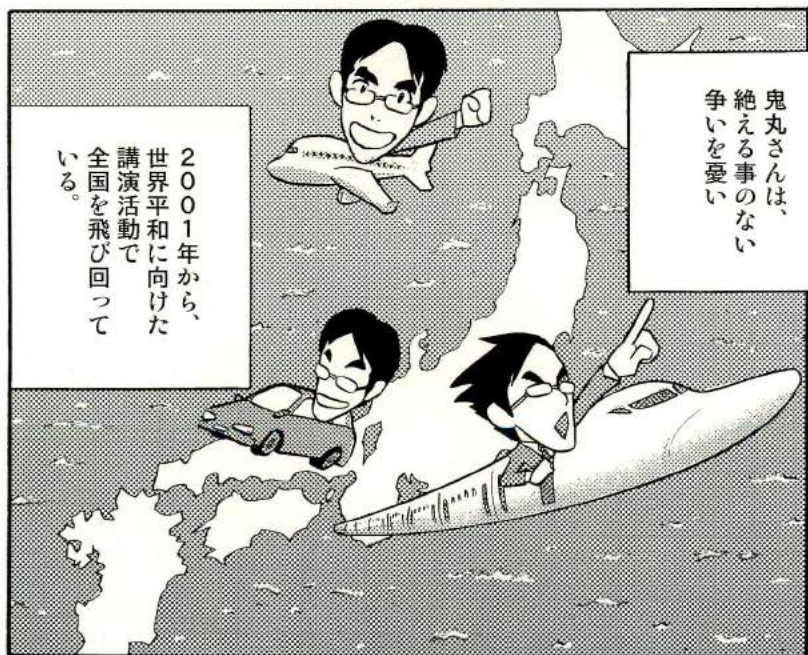
鬼丸と  
申します。

NPO法人テラ・ルネッサンス  
理事長 おにまる まさや  
鬼丸 昌也さん

とくていひえいりかつどうほうじん  
NPO (特定非営利活動法人)  
『テラ・ルネッサンス』とは

# Terra Renaissance

2001年10月に設立。アフリカのウガンダ北部(グル県)において  
ゲリラ軍から保護された元・子ども兵の社会復帰プロジェクトや、  
カンボジアでの地雷除去支援、また、  
小型武器の不法取引規制のキャンペーン活動を行っている。







年間  
約140回の  
講演をこなし



小・中・高校生  
から、  
社会人、  
高齢者まで




世界で  
起こっている  
現状と、それを  
打開するために  
自分たちが  
できる事を



熱く  
語っている。



私は



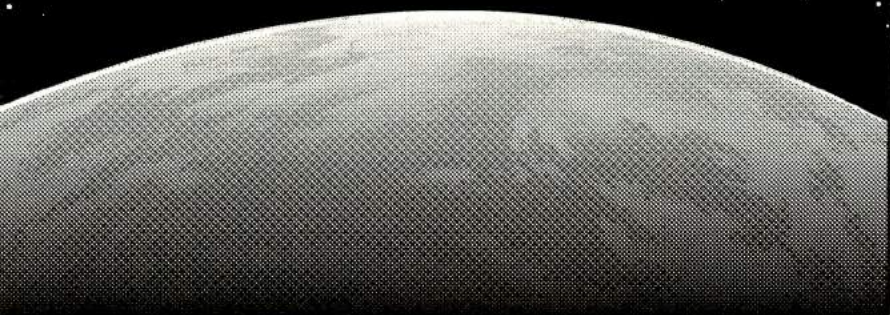
子ども兵の存在を  
知った時から

この問題を  
見過ごすことが  
できなくなりました。



現在  
世界には

確認されて  
いるだけで  
18歳未満の  
子ども兵が  
約30万人  
存在して  
います。





自分の意思と  
関係なく

拉致や誘拐によって  
強制されるバタイン



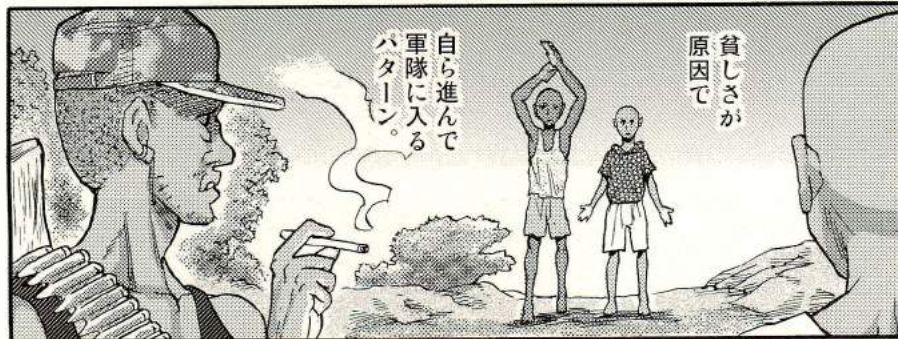
もう一つは

ザン



貧しさが  
原因で

自ら進んで  
軍隊に入る  
バタイン

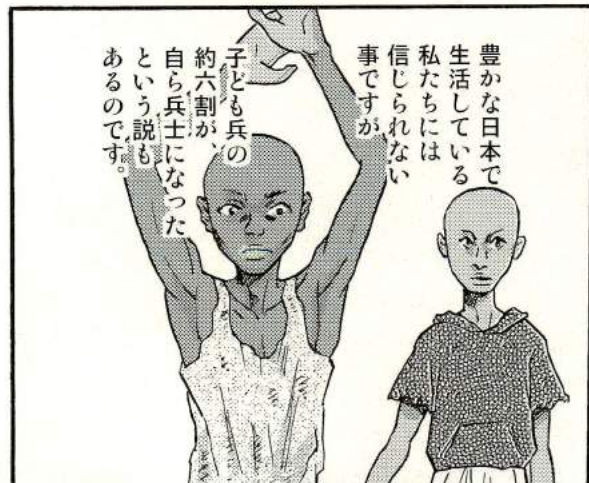


「兵士になれば  
給料が  
もらえる」

「食べ物に  
困らない」

豊かな日本で  
生活している  
私たちには  
信じられない  
事です

子ども兵の  
約六割が  
自ら兵士になった  
という説も  
あるのです





グローバル化の中、  
富める者は富み、  
貧しい者は貧じいままという  
三極化が進んでいく……。

そんな背景も、  
子ども兵を  
生み出す原因の一つ  
なのです。

そして  
子ども達は

軍隊の中で  
様々な過酷な  
体験をすること  
になります。

大人の兵士と  
同様の訓練や  
労働をさせられる  
のに

給料や食料は、  
いつも後回し。

さらに、  
ちよつとした事で  
厳しい懲罰も  
受けます。







ウガンダでは、  
少女兵が  
おしゃべりをして  
いただけで、  
唇を切りとる  
『リップカット』という  
懲罰があります。

ネパールでは、  
鼻を十字に  
傷つける  
『ノーズカット』が  
行われていた事も  
あります。



一人の子どもを  
見せしめにして

複数の  
子どもの心を、  
『恐怖』で  
縛り上げる。

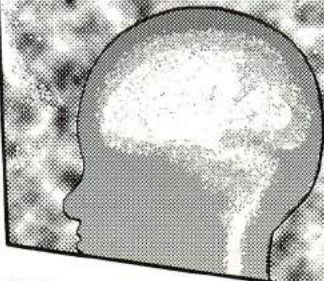


このように、  
子ども達を  
効率的に  
コントロールする  
術を

軍の指導者は  
よく知って  
いるのです。



他にも  
こんな洗脳方法が  
あります。



自分の生まれ育った  
村へ連れて行き、



こうやって  
人を殺める  
事への  
ためらいを



無くしていく  
のです。

一番大切な家族や  
親戚  
友達を  
自らの手で……



# ウガンダの元・子ども兵 ヨマケチ君(仮名)

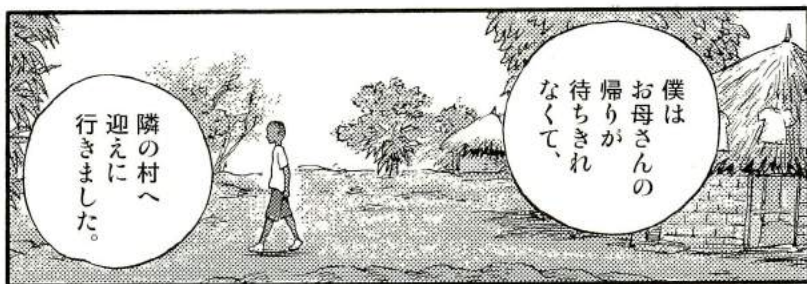
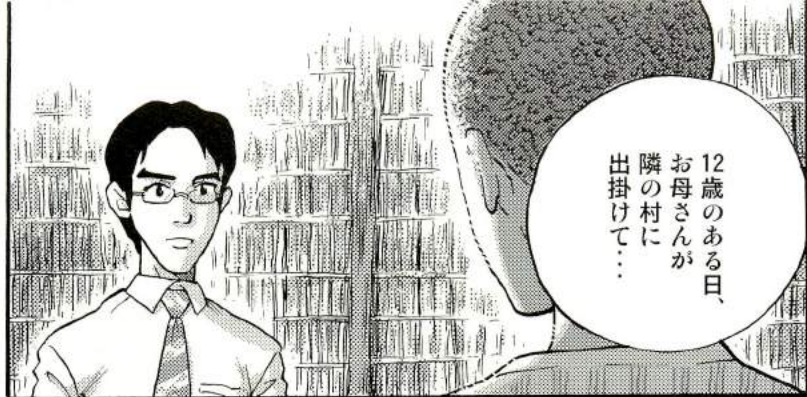


大好きな  
お母さんの腕を

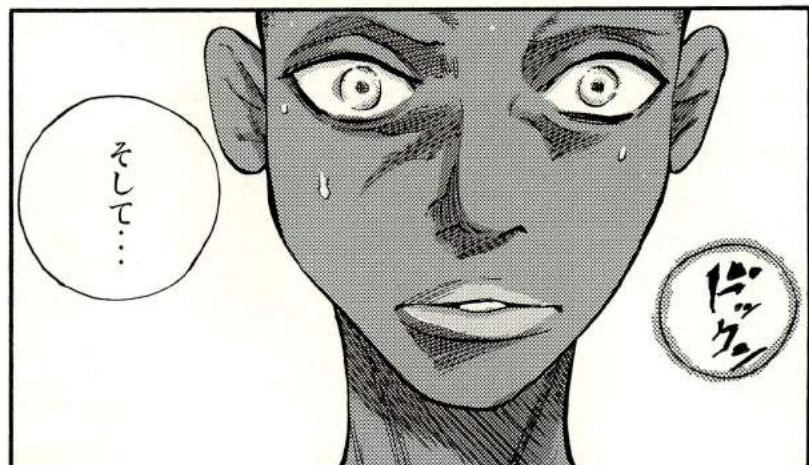
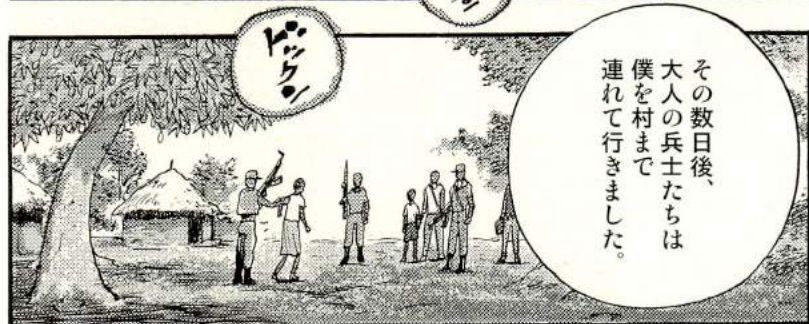
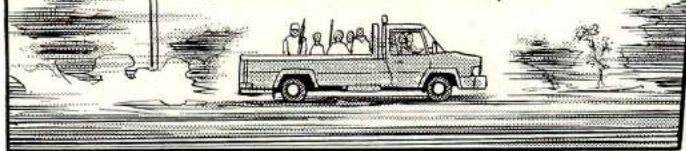
僕は、

切り落として  
しまったんだ  
……





ブ オ オ オ オ






僕の  
お母さんの  
目の前で、こう  
命令しました。

「この女を  
殺せ」

兵士がお母さんを  
銃の先でこづくので、  
とても  
怖かったけど、


僕は、  
「そんな事できない」  
って言いました。

すると…



「それなら  
この女の  
片腕を  
切り落とせ！」

「そうしなければ  
お前もこの女も  
殺してしまうぞ！」




頭の中が  
まっ白に  
なった。


でも、  
大好きな  
お母さんと、  
僕の命だけは  
助けてほしいと  
思ってた……

僕は……





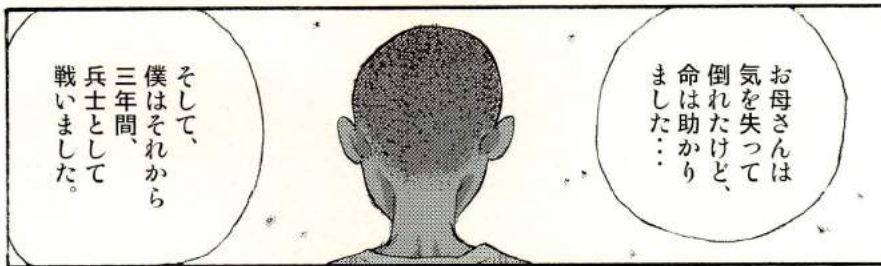
気づいた  
時には  
お母さんの  
手首が  
地面に  
落ちていました。



今度は棒を  
持たされて、

「これで  
女を殴れ！」  
と命令されて、

お母さんを  
棒で  
殴りました。



お母さんは  
気を失って  
倒れたけど、  
命は助かり  
ました…

そして、  
僕はそれから  
三年間、  
兵士として  
戦いました。



…  
…  
学校に  
行きたい…

でも、  
行けない。



…  
…  
今、一番  
したい事は  
何？



実は、  
二週間前に

病院で  
お母さんに  
会ってきたん  
です。





片腕を失った  
お母さんは、  
前よりも  
ずっと痩せていて、

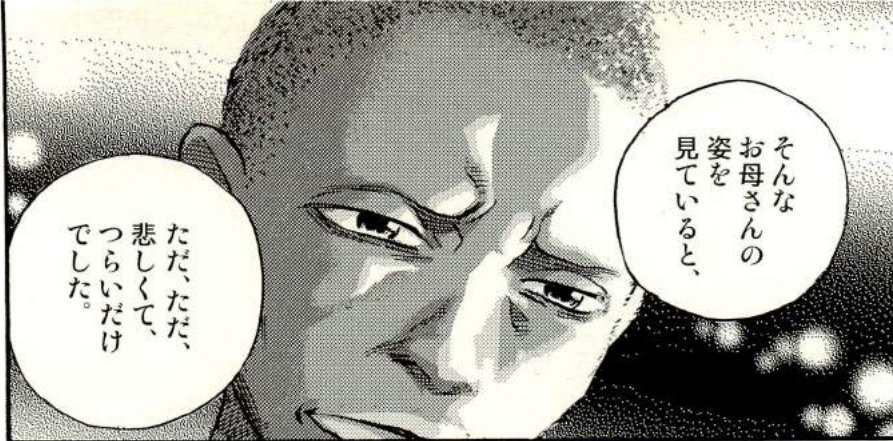
元気が  
ありません  
でした。



それでも、  
僕の顔を  
見ると、



「軍隊で、  
どんなつらい目に  
あったの？」  
と、優しく  
話しかけて  
くれました。



そんな  
お母さんの  
姿を  
見ていると、

ただ、ただ、  
悲しくて、  
つらいだけ  
でした。



僕はもう、  
以前と  
同じように

お母さんの  
愛を  
感じる事は  
できなかった  
のです。



お父さんは  
病気で、  
仕事が  
できないから

学校に行く  
お金は  
ないし…

僕には  
絶望しか  
残っていない  
……

この当時、

お母さんの知人に  
引き取られていた  
コマケチ君は、  
悲痛な表情で  
話してくれました。

軍隊は

子どもたちの  
恐怖心を  
無くすために  
手段を選びません。

コホ

ぐぐ

コホ

お前達は今、  
神様が与えて  
下さった  
薬を飲んだのだ！  
だから  
死にはしない



そして、  
麻薬や火薬・アルコールによって、  
興奮した子ども達に  
大人は命令するのです。

HAAA

行け！  
戦え！

W  
O  
W  
O  
O  
O





子ども兵は、  
地雷のない  
安全な  
通り道  
を確認するために




地雷原を  
歩かされる  
事もあります。

歩

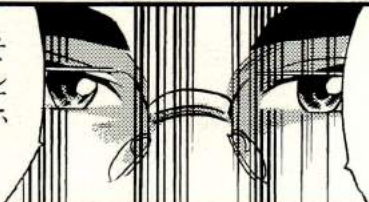
歩






このように  
子ども達が  
大人にとって  
使い勝手の良い

モノや  
武器として  
消費され  
続けている。



この事実  
に大きな  
ショックを  
受けました。

そして、  
次第に  
この問題の  
根の深さが  
分かって  
きました。



それは、  
軍隊にいた  
時よりも


辞めたり、  
脱走したり、  
保護された  
後のほうが

より過酷な  
体験をしてしまう  
という事実  
でした。

元・子ども兵が、  
人を殺した時の  
夢にうなされ、

真夜中に  
飛び起きて  
しまう  
ケースは  
少なく  
ありません。






子ども達は、  
私たちの  
想像をはるかに  
超えた  
心の傷を  
受けているのです。

さらに、

問題なのは  
「暴力や  
権力への依存」  
が身について  
しまっている  
ケースです。

軍隊で、  
周りにいる  
大人達に  
自分の事を  
知ってほしい  
認めてほしいと  
思ったら、

方法は二つ。



「人よりも  
多く物を  
盗むこと」

「人よりも  
多く敵を  
殺すこと」

これが  
全てなのです。

戦争の首謀者は、  
利益が確保できると



自分達の都合で  
始めた戦争を、  
突如として  
止めてしまひ  
ます。

その後、  
生まれ育った村に  
戻ってきた  
元・子ども兵は、



急激な  
環境の変化に  
ついていけません。

子ども達と  
遊んで  
いても、



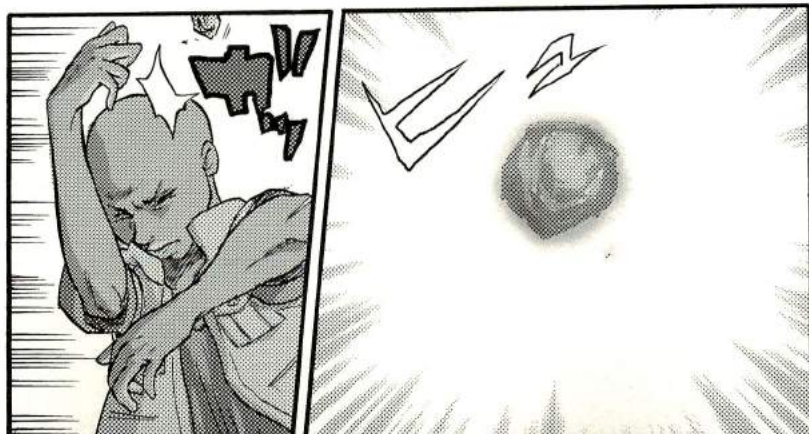
ちよつとした  
意見の  
食い違いで、  
暴力を  
振るつたり、



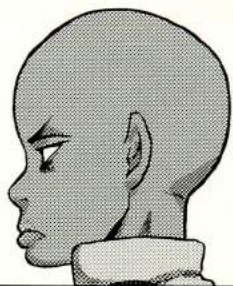
大人から  
注意されても  
暴力で  
反抗して  
しまうのです。











ザッ

精神面だけでなく  
経済的にも  
苦しくなり

結局、  
軍隊に戻って  
しまいました。

ヒ ュ ヲ

ク

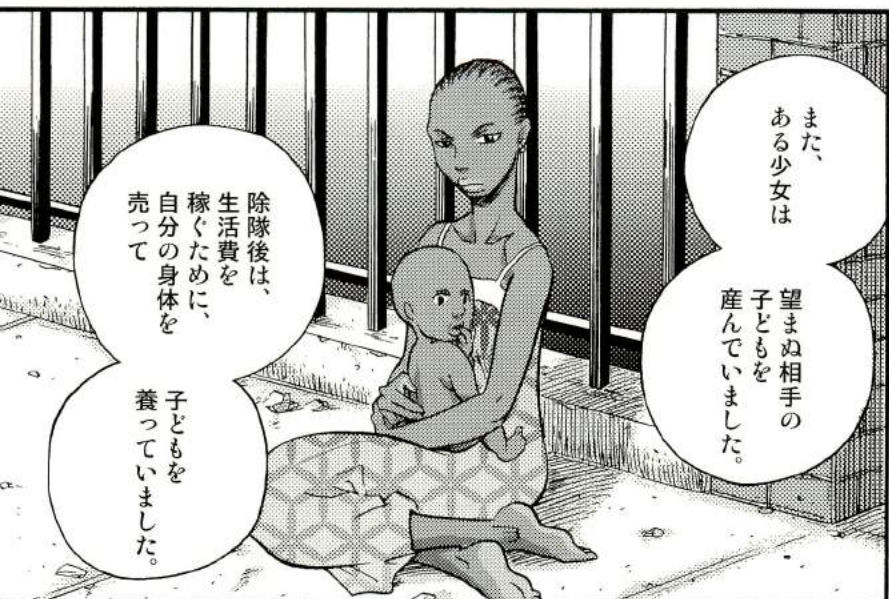
ク

ザッ

ザッ





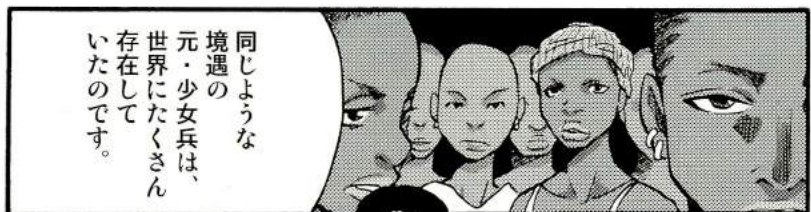


また、  
ある少女は

望まぬ相手の  
子どもを  
産んでいました。

除隊後は、  
生活費を  
稼ぐために、  
自分の身体を  
売って

子どもを  
養っていました。



同じような  
境遇の  
元・少女兵は、  
世界にたくさん  
存在して  
いたのです。



調べれば  
調べるほど、  
衝撃的な  
事実ばかりで

言葉を  
失うほど  
でした。

当初、  
僕達に  
何ができる  
のだろうかと  
悩んでいました。

そして、  
子ども兵の問題を  
たくさんの人に  
知ってもらい、  
活動資金を集めて

日本国内で、  
この問題に  
取り組んでいる  
NGO(※)を  
支援したら  
いいじゃないか！

と、思い  
ついたのです。

アイデア

早速、  
検索  
開始！！

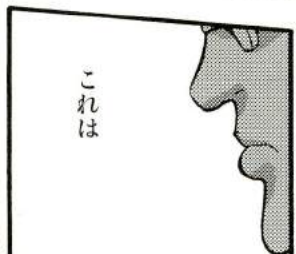
我ながら  
グッド  
アイデア！



「何かをやれ」  
「動け」



という  
メッセー  
ジ  
なのだろうか……



これは



よし!





理事長

## 2. 鬼丸 昌也



テラ・  
ルネッサンスで、  
子ども兵の問題に  
取り組もう!!  
そう決意したのです。

# すーん。。

まず、  
子ども兵や  
小型武器に関する  
情報を調べて  
みたのですが、

ほとんどが  
英語で、  
僕には理解  
できませんでした。

う……わ……



うーん……  
どうしたものか……

普通は  
大学二年で  
単位取得  
するはずの  
英語

それを  
最終学年で  
ようやく  
クリアした  
くらい苦手の課目……





さらに調べていると  
小型武器に関しては、  
「国際小型武器  
行動ネットワーク」

少し  
ずつ…

わかって  
きたぞ…



子ども兵に関しては、  
「世界子ども兵  
禁止連盟」

というNGOの  
ネットワークがあり、

両方とも

イギリスに本部がある  
事が分かりました。

いざ!

イギリス  
へ!!



あ  
もし  
もし!

航空券の  
予約を!



ホテル  
宿泊  
一名で。



さあて!



英語

どうし  
よう?





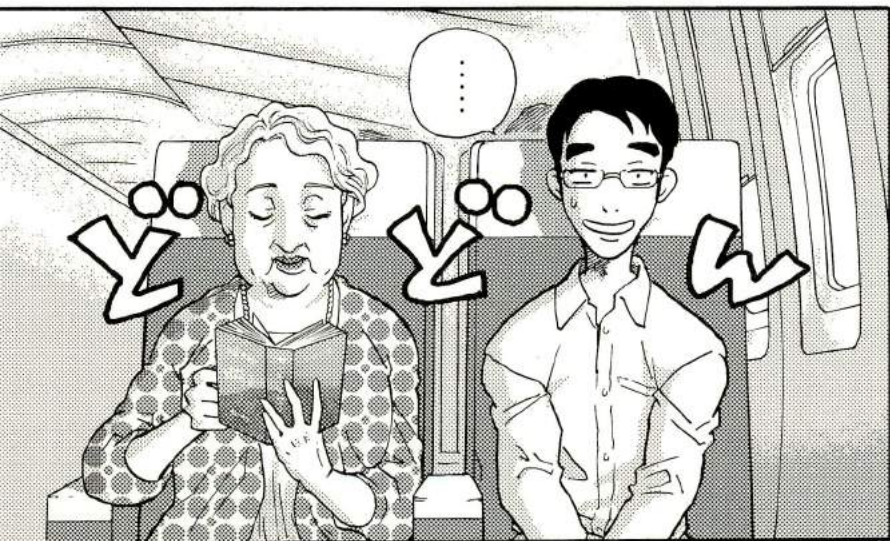


余談に  
なりますが

以前、  
ウガンダから  
日本に戻る時



空港の窓口で、  
「通路側の席」  
という英語を  
度忘れして  
しまい……



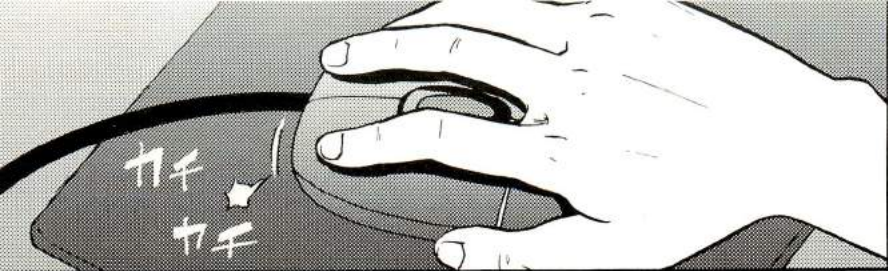












## 通訳ボランティア募集

カタ カタ



ボランティアしてもいいですよ。



それから、  
書き込みを  
いただいた方と  
お会いし、



ありがとうございます！  
ごさい  
ます！  
よろしく  
お願い  
します。



よっしや  
っや  
!!





ロンドン滞在の  
最終日に

「国際小型武器  
行動ネットワーク」と、  
「世界子ども兵  
禁止連盟」を  
訪問することが  
できました。



どの事務所も  
温かく  
迎えてくださって

日本から来た  
小さなNGOの  
若者に、  
それぞれの問題や、  
取り組みについて  
熱心に教えて  
いただきました。

その時の  
出会いが

後にウガンダへ  
調査に行く際に  
大きなプラスと  
なっていくのです。



それさえ  
決まれば、

手段は  
いくらでも  
見えてくる  
ものなのです。

人生において  
大切なのは

「やること」を  
決意する事。



イギリスから  
帰国した後、

日本各地での  
講演に、  
子ども兵の話  
を追加するよう  
に  
しました。





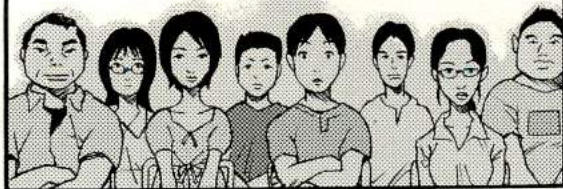
聞いている。  
人達にとってみれば



子ども兵の  
体験談やデータは  
確かに衝撃的では  
あるのですが…

自分と  
かけ離れた  
世界のことに思えて

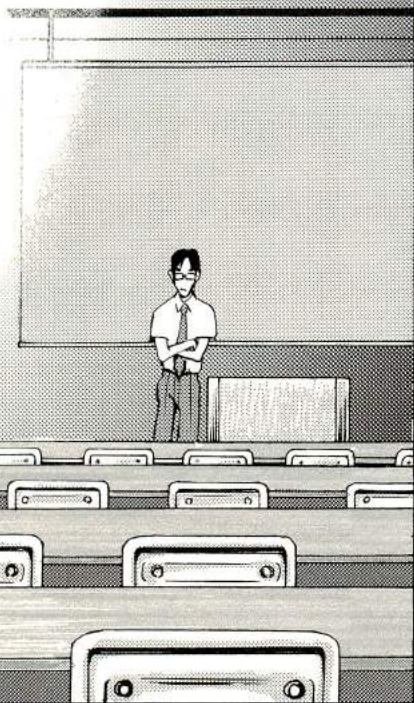
ピンときて  
いなかっただようなのです。





何しろ  
自分自身も  
「実感」を持って  
話ができ  
いなかったので、

今考えれば  
きちんとお伝え  
する事など、  
到底無理な  
話だったと  
思います。







イギリスの  
「国際小型武器  
行動ネットワーク」  
に問い合わせると、

ウガンダには、  
小型武器や  
子ども兵の問題に  
取り組むNGOが  
数多く存在して  
いました。

よし

ウガンダへ  
行こう！

ターゲットは  
絞られた！



しかし、  
一旦、  
そう決めたものの、

僕の心の中には  
たくさんの  
不安がありました。

まず、  
ウガンダ北部では  
内戦が  
続いており、

コ  
コ




そこは当時  
退避勧告が  
発令されてい  
る  
地域でした。

ゴ  
ゴ  
ゴ








日本国内でも  
あまり  
知られていない  
地域だし、


詳しい情報が  
ほとんど  
ないな――

一体  
どんな場所  
なんだろう…




しかも  
テラ・ルネッサンスは  
今以上に未熟な  
組織だったため、

僕がいなくなれば  
が瓦解してしま  
う恐れが十分に  
ありました。



もし  
万が一の事が  
あつたら

せっかく設立した  
テラ・  
ルネッサンスは  
どうなつて  
しまうんだろう




けれども、  
二度決意した事を

簡単に  
あきらめる事は  
できませんでした。






不安よりも  
「ウカンダに  
行く必要がある」  
という強い想いが、  
僕の背中を  
後押し  
するのです。



渡航資金は  
たくさんの方から  
カンパが寄せられ  
たものの、


想定した  
金額には  
届かず…

もし  
もし



ありがとう  
ござい  
ます！

ありがとう  
ござい  
ます—！



設立当初からの  
支援者である

うん  
うん

岡田<sup>た</sup>多母理事に  
相談しました。  
すると

分かったわ！  
なんとか  
するから



ウガンダに  
行って、  
しっかり  
現状を見て  
来てね。



鬼丸くん達は  
私たちが  
できない事を  
代わりに  
やってくれて  
いるの、

同じ想いを  
重ねている  
人が  
いることが  
嬉しいの！









たかさんの  
人達から  
託された  
想いを胸に、

初めての  
アフリカ大陸

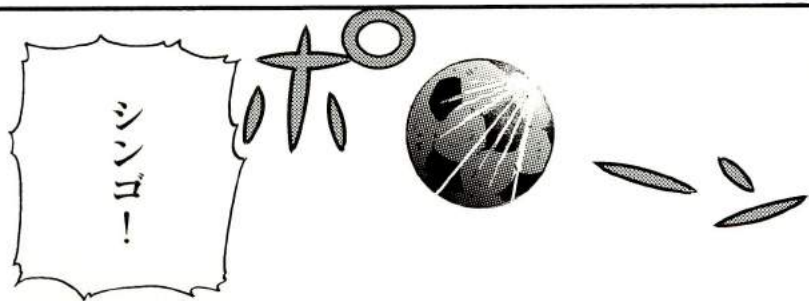
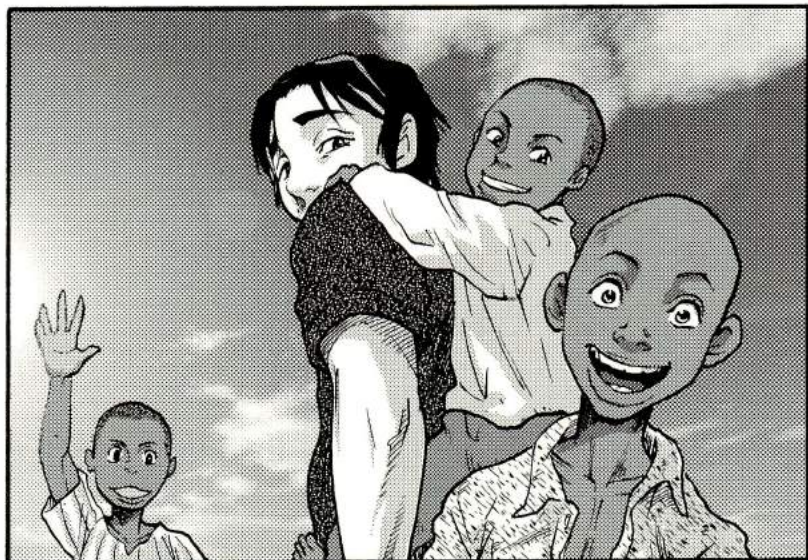


ウガンダへ



ウガンダ駐在代表

### 3. 小川 真吾

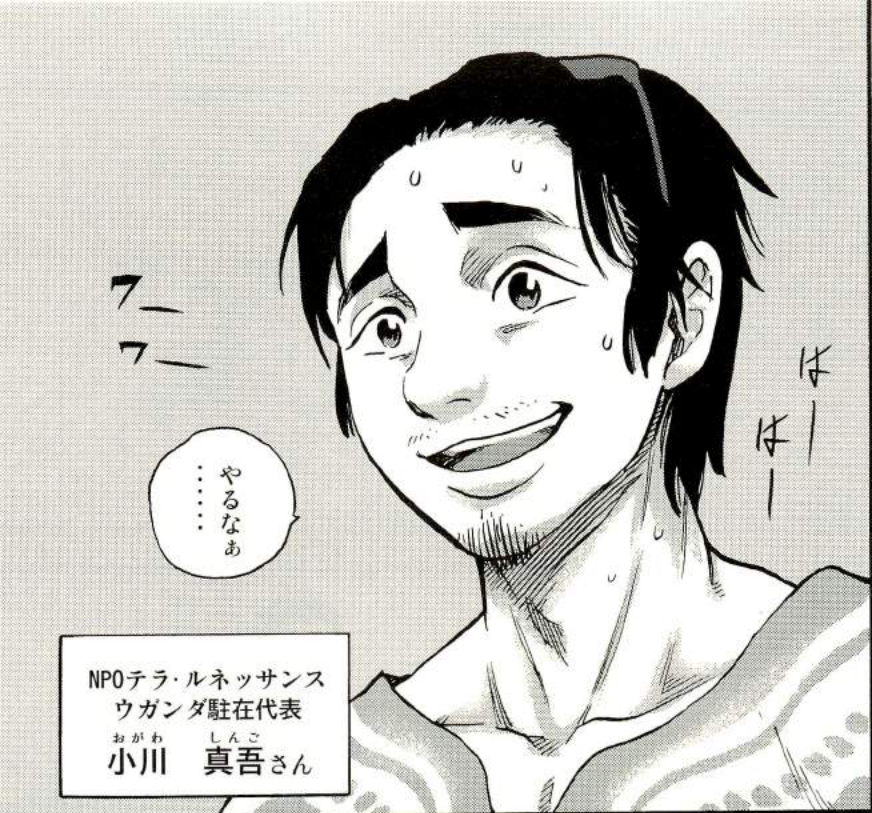




ウガンダ北部(グル県)の  
テラ・ルネッサンス施設







やるなあ  
……

NPOテラ・ルネッサンス  
ウガンダ駐在代表  
おがわ しんご  
小川 真吾さん



その時、  
インドの  
修道院で  
マザーテレサの  
臨終に遭遇し、



僕は  
大学時代に、  
世界中を旅して  
いました。



さらに  
大学卒業後は  
青年海外協力隊に  
参加し、  
ハンガリーで  
子ども達に  
野球を  
教えたり、  
ナショナル  
チームの指導を  
していました。



それを  
きっかけに、  
マザーテレサの  
施設で  
ボランティア  
活動に参加。



僕のいた  
ハンガリーにも  
難民が流れてきて  
いました。

1999年の  
コソボ紛争  
NATO空爆の  
際には、



そんな中での  
旧ユーゴとの  
親善試合。

野球選手の  
多くは  
元・兵士で、  
内戦を経験  
していました。





試合が終わって  
雑談を  
していた時に、


クロアチア人と  
セルビア人が  
共に住む村に  
生まれた




サピナさん(仮名)という  
クロアチア人の  
女性と  
知り合いました。

彼女は、

元・  
少女兵  
でした。




あなたが  
体験した  
紛争の話  
聞かせて  
ください。




私にも、  
豊かな自然に  
恵まれた村で、

友達と  
魚釣りや  
木登りをして、  
楽しく遊んだ  
思い出があるの。



……  
……  
日本では  
子どもの頃、  
どんな遊びを  
するの？


あうー



……  
……  
友達と  
野球や  
サッカー

あと  
缶蹴りを  
して  
いました。






日本という  
平和な国で  
生まれた  
あなたには、


理解  
できないと  
思うわ。

私達の  
国で起きた  
紛争は…




その一緒に  
遊んだ  
幼馴染と、

殺し合わなければ  
ならない  
ものだったの。




実際、私は  
17歳の時  
この手に  
銃を持って、

幼馴染や  
知り合い、  
親戚を  
殺して  
しまったの。




そんな事を  
誰が  
したいと  
思いますか？




仮に  
日本で内戦が  
起こった  
として

あなたは  
幼馴染に  
銃を  
向けられ  
ますか？




僕は、  
何も言う事が  
できませんでした。






それと、紛争は、  
民族同士や  
宗教の争いだと言われるけど、  
そうじゃないの。

だって、  
クロアチア人も  
セルビア人も  
昔は一緒に  
平和に暮らして  
いたし、  
子ども同士も  
仲良く遊んで  
いたもの。



本当の原因は、  
資源や土地の  
奪い合いだったり、

武器を  
売りたいがために  
紛争を起こす  
人がいるからなの。



私も  
当時の自分は、  
頭が狂って  
いたとしか  
思えないんです。

それ以来、  
私は、  
鏡を見ることも、

自分の  
写真を撮ることも、  
撮ることも  
できなくなりました。



アウー

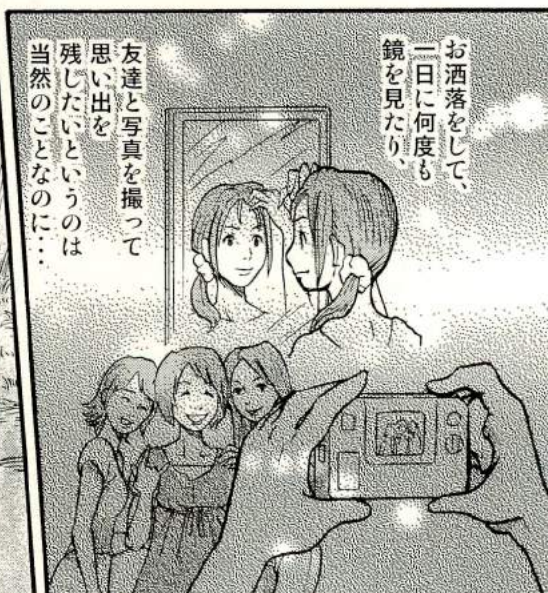
見ると、  
戦っていた  
自分を  
思い出して  
しまうから……



日本なら、  
サビナさんと同じ  
20代前半であれば、



五年近く  
経つというのに、  
まだ頭から  
離れないの……



お酒落をして、  
二日に何度も  
鏡を見たり、

友達と写真を撮って  
思い出を  
残じたいというのは  
当然のことなのに……



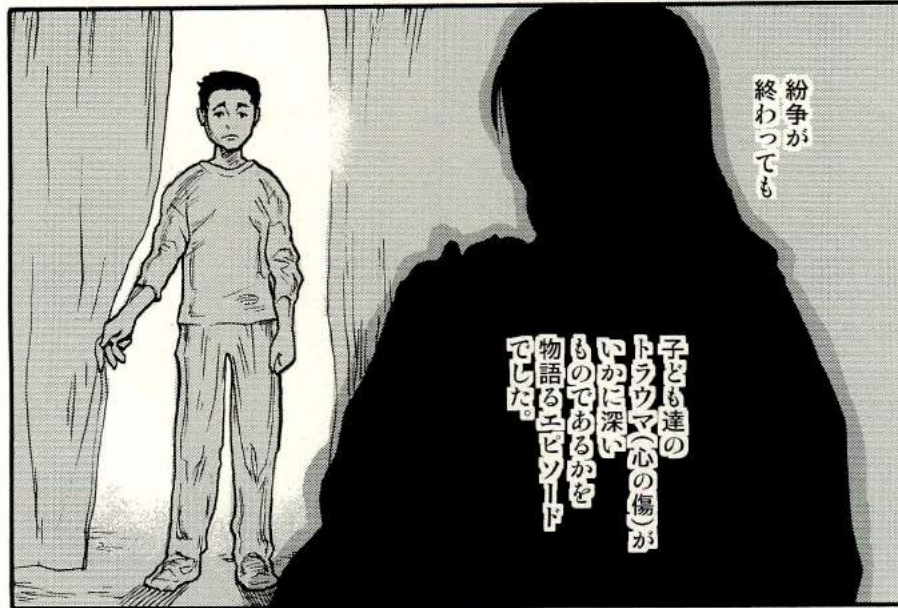




爆弾が落とされ、  
家が焼かれ、  
人が殺されていく  
記憶がよみがえって  
しまうのです。



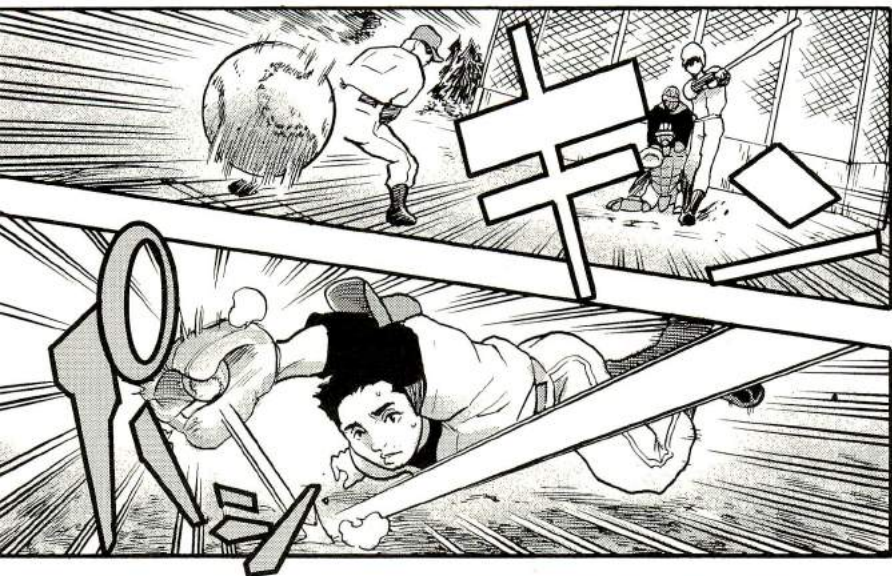
目覚ましの  
ベルによって  
空襲警報の  
サイレンを  
思い出し、



紛争が  
終わっても

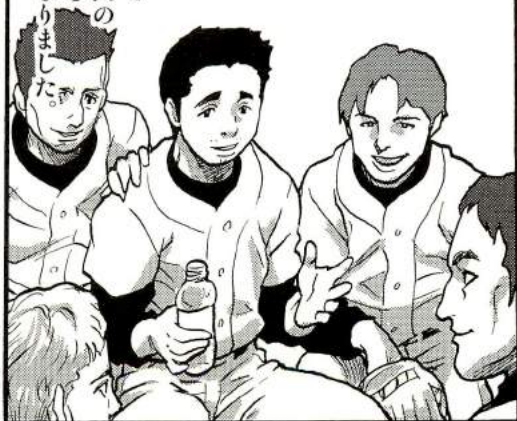
子ども達の  
トラウマ(心の傷)が  
いかに深い  
ものであるかを  
物語るエピソード  
でした。





そんな  
子ども達と  
出会って、

僕は  
武器を持って  
戦う子ども兵の  
問題に関心を  
持つようになりました。



その後、  
カナダに  
一年間  
留学した後、  
進路に  
悩みました。

大学院に  
行くか…  
それとも、

日本の  
NGOで  
働くか…









この頃  
アフガニスタンは  
世界的に  
注目されていたので、

世界中の  
NGOから  
支援が  
入っていました。



このような  
状態になると  
潤沢な資金に  
よって、  
様々な支援が  
進むという  
良い面も  
あるのですが、



その反面、  
物価がどんど  
上がって  
しまったり、

英語が話せる  
一部の人が  
豊かになって  
貧富の差が生じ、  
嫉妬や憎しみの  
原因となってしまう  
という弊害もありました。



例えば、  
地元の住民が  
国際的なNGOに  
雇用されると、



一気に収入が  
10倍になるといった  
話があちこちに  
存在していたの  
です。

アフガニスタンは  
イスラム教の国で、  
以前は  
年配の人が尊敬  
されていたのですが、

お金を持っていてる人が  
尊敬されるように  
なるなど、  
価値観も大きく  
変わっていきました。



こうした  
事実を目の当たりにして、  
僕の中で

何かを  
変えて  
いきたい……！

という  
気持ち  
が芽生え  
ていま  
した。

鬼丸君  
久しぶり。

どうも  
どうも。






この間、  
イギリスに  
行って、  
子ども兵の事を  
調べて  
きたんだけど、



今度、  
ウガンダに  
一緒に  
行かない？

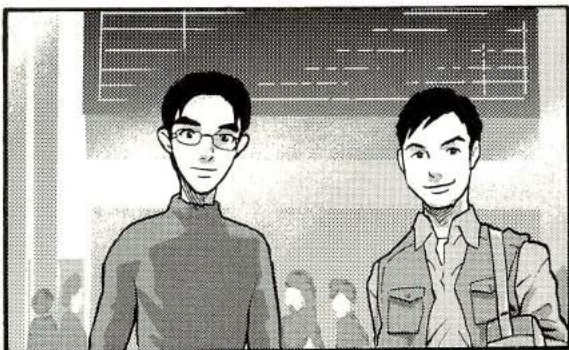


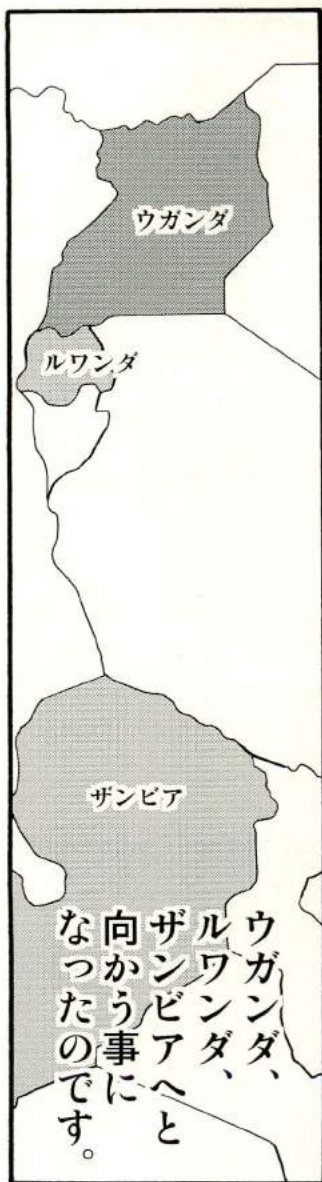


調べてみると、  
確かに支援が  
必要そうな状況  
でした。

ウガンダは、  
あまり注目されて  
いない国でしたが、

そして、2004年3月末 ——





鬼丸君と  
カメラマンの山田しんさんの  
三名で、



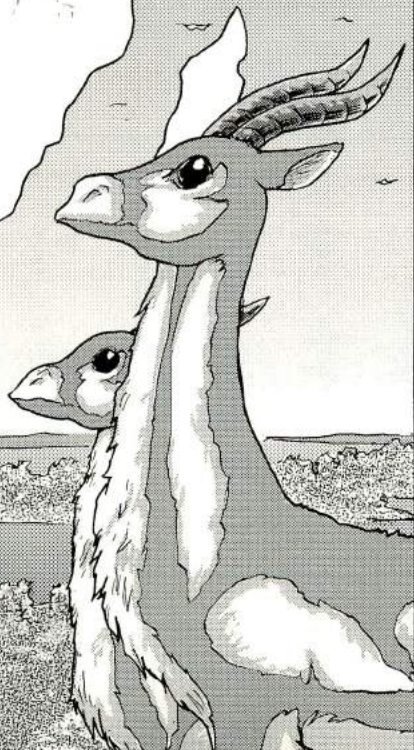


『アフリカの真珠』と  
言われる  
ウガンダ共和国。

ウガンダ共和国

赤道

ビクトリア湖や  
ナイル川、  
広大な  
サバンナを  
有する緑豊かな国。

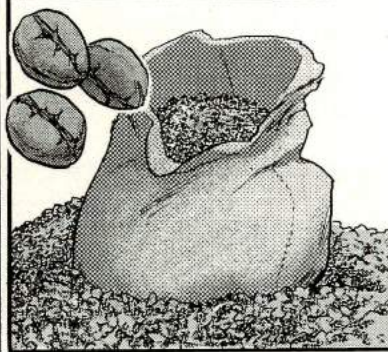





現在、  
ウガンダの経済は  
家具・機械部品の製造、  
そして  
世界第9位の生産量を  
誇るコーヒーや



などの  
輸出によって  
発展を  
続けている。








特に、  
南部にある  
首都カンバラは、  
政治だけでなく

商業、製造業、  
輸送業の  
中核としての  
役割も  
担っている。

これまで  
激動の波に  
さらされて  
きた。



そんな  
成長を  
遂げてきた  
ウガンダも

1962年に  
イギリスより独立。  
1966年以降、  
独裁政権による  
クーデターが  
繰り返され

1971年〜  
1979年の八年間  
権力を握った  
アミン氏は、  
『地獄』と呼ばれる  
独裁体制を築き



反体制派や  
外国人を  
30万人  
虐殺したと  
言われている。




その後も、度重なる  
クーデターが続き、  
1986年に  
ムセヴィニ氏率いる  
『国民抵抗運動』が、  
国土の大部分を  
制圧。

ムセヴィニ氏は、  
大統領となり、  
その後の選挙で  
三度再選され、  
今日に  
至っている。







おさまる事のない  
反政府勢力による  
住民への襲撃、  
誘拐、略奪。

エイズ、  
エボラ出血熱  
などの病気。

新興宗教の増加、  
カルト教団による  
集団自殺など、  
人々は常に  
不安と向き合っ  
てきた。

そして、北部地域では

# LRA

(神の抵抗軍)

反政府勢力  
L R A  
(神の抵抗軍)と

たくさんの  
子ども達が  
L R Aに  
誘拐され、  
子ども兵として  
戦う事となった。

その数はなんと、  
1986年以降  
六万六千人にも  
のぼると  
言われており

L R Aの  
三分の二は  
17歳以下の  
子ども達で  
構成されている  
事から、  
「子どもの軍隊」とも  
呼ばれている。

政府軍との  
戦闘は  
約22年間も  
続き、





LRAが  
生まれた  
背景には


植民地時代から  
続く  
北部と南部の  
対立

国外からの  
武器流入、  
周辺国からの  
政治的な圧力など、  
様々な要因が  
複雑に  
絡み合っている。

1962年の  
独立以前、  
宗主国だった  
イギリスは

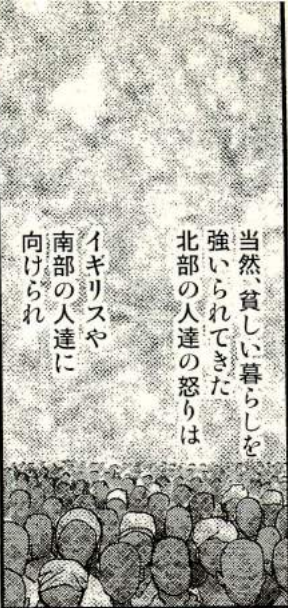
南部の人に  
教育の機会を与えて、  
公務員等の  
エリート職に就かせ、  
一定の生活を  
保障する反面、

北部の人には  
軍の仕事を与え、  
政治的な取り決めに  
行う際には  
北部の意見を  
取り上げようとも  
しなかった。




つまり、  
植民地にありがちな  
分断統治を行い、

ウガンダの人達が  
一丸となって  
イギリスに刃向かうことのない  
ようにしてきたのだ。




当然、貧しい暮らしを  
強いられてきた  
北部の人達の怒りは  
イギリスや  
南部の人達に  
向けられ



激しい  
不満は、  
武器をとって  
戦う事に  
つながり

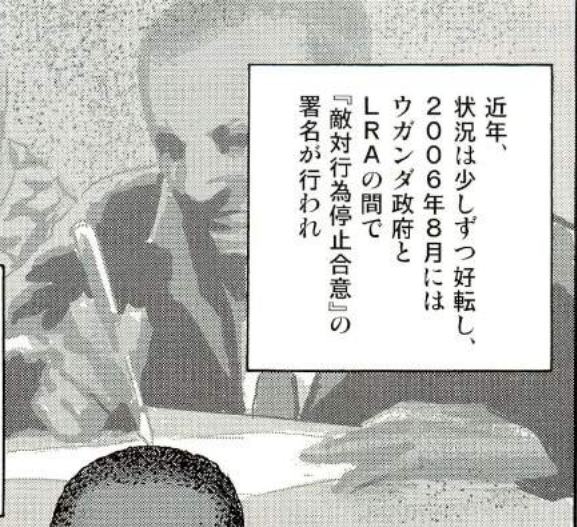
LRAの  
誕生へと…。



政府軍や  
LRAに  
武器を売って  
利益を得る  
国際的な  
武器密輸  
グループや


LRAに  
資金提供を行う  
反ウガンダ  
政府勢力の存在が  
紛争の解決を  
困難にし、  
長期化して  
いった。





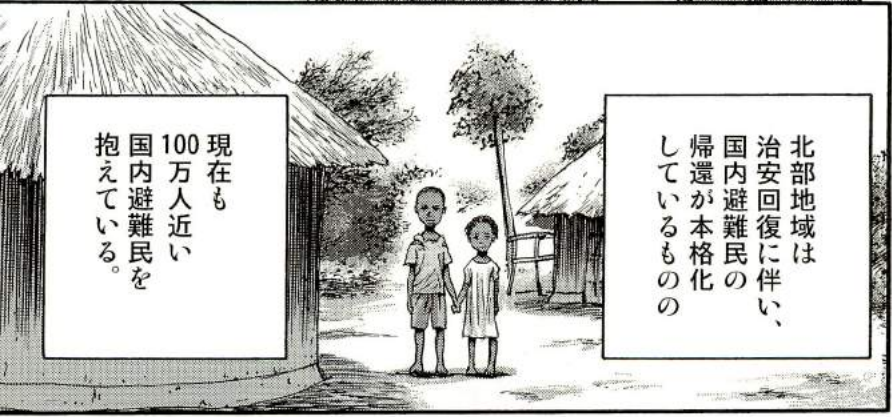
近年、  
状況は少しずつ好転し、  
2006年8月には  
ウガンダ政府と  
LRAの間で  
『敵対行為停止合意』の  
署名が行われ

以降、  
南スーダン政府の  
仲介による  
和平交渉が  
継続されている。



南部の  
発展とは  
対照的に

貧困に  
あえぐ  
北部の人々  
……



北部地域は  
治安回復に伴い、  
国内避難民の  
帰還が本格化  
しているもの

現在も  
100万人近い  
国内避難民を  
抱えている。

オオオオ



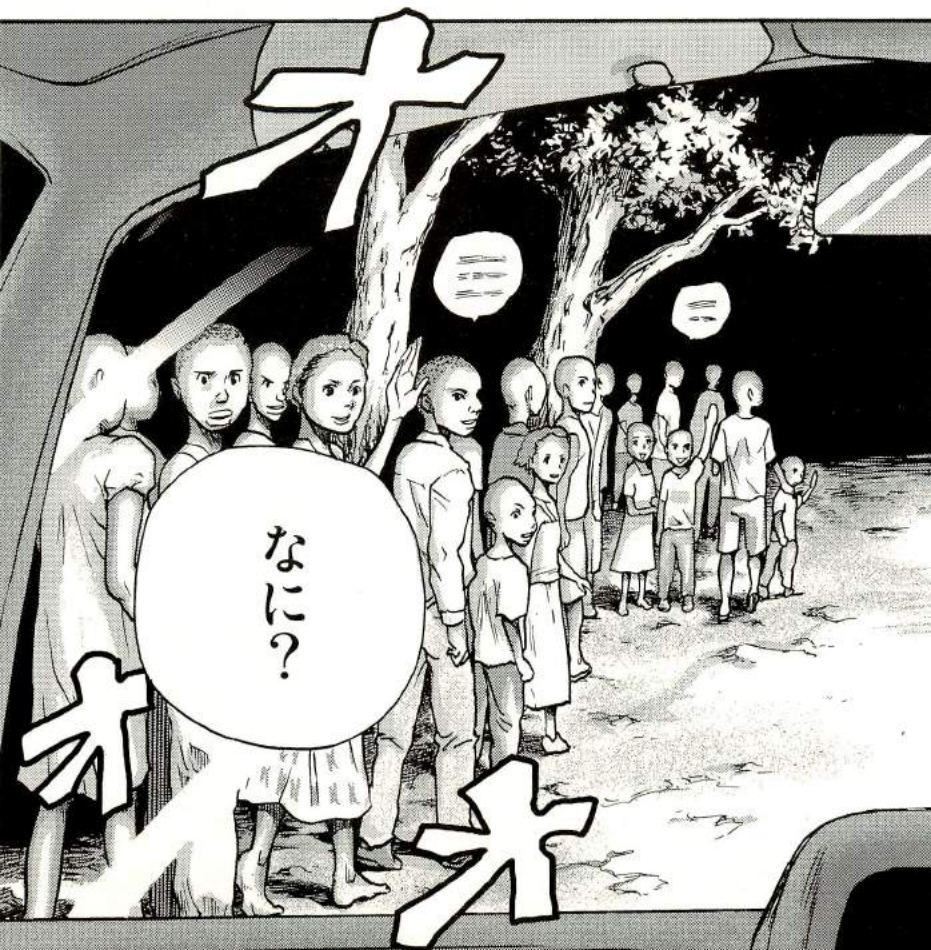
ウガンダの  
調査活動初日  
北部クル県  
近辺。

オオオ

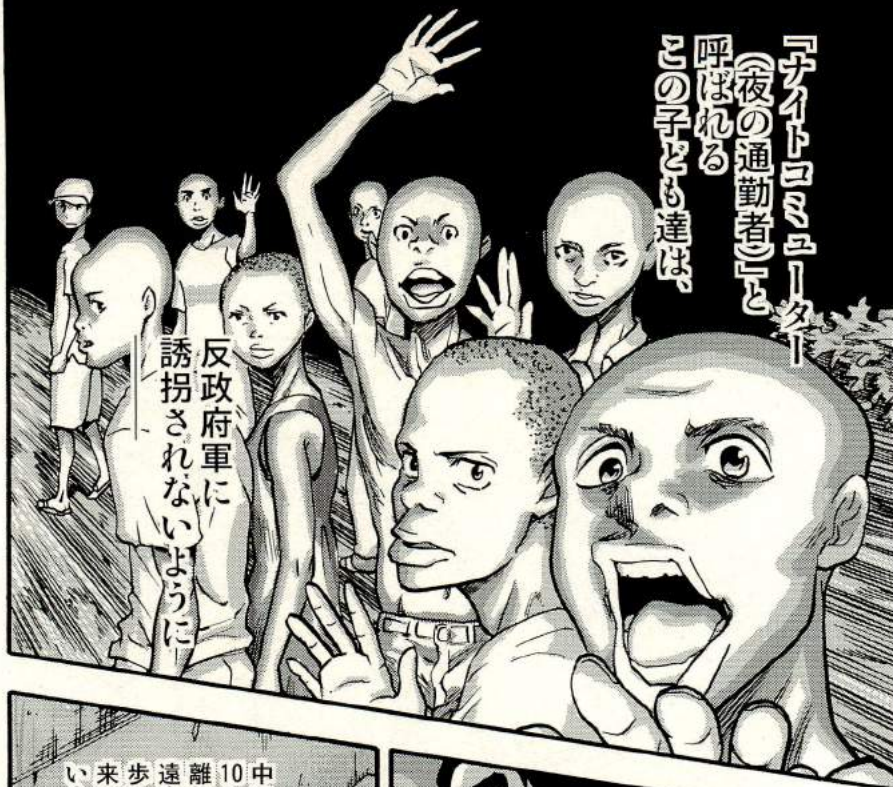


オオ





「ナイトコミュニティー  
(夜の通勤者)」と  
呼ばれる  
この子ども達は、



反政府軍に  
誘拐されないように



中には、  
10 km以上も  
離れた  
遠くの村から  
歩いて  
来る子も  
いました。



毎日  
夜暗くなる前に  
安全な  
町の中心部に  
避難して  
いたのです。





この時、  
毎晩四千人もの  
子ども達が  
道に溢れて  
いたのですが、

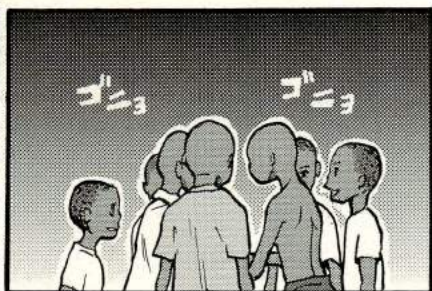
多い時には、  
六千人以上にも  
のぼっていた  
そうです。

今でこそ  
その姿は  
見られなく  
なりましたが、

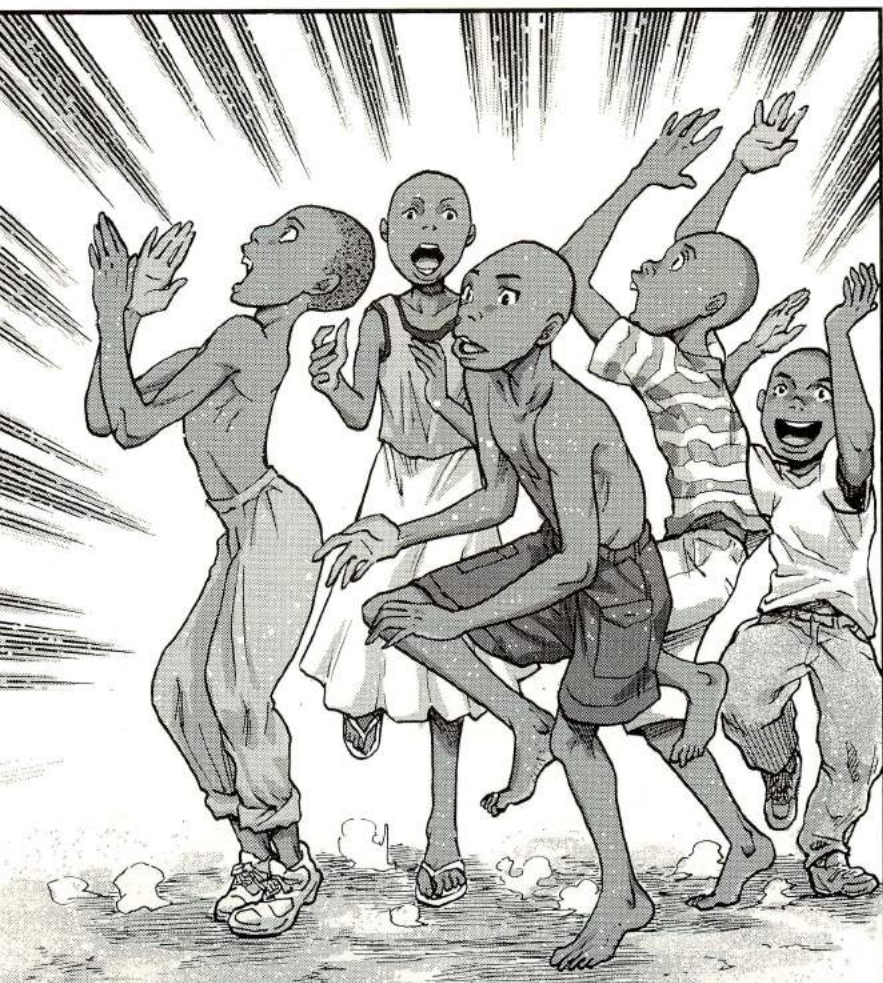
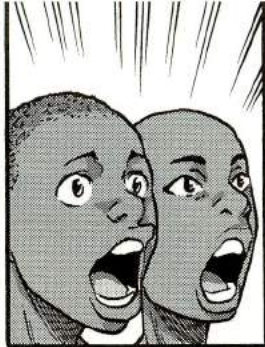
20年近くも  
毎日こんな生活が  
続いていたのです  
……

紛争は、  
子どもや  
女性をも

巻き込んで  
しまう









子ども達は  
歌を歌い  
踊りながら  
僕の誕生日を祝って  
くれました。

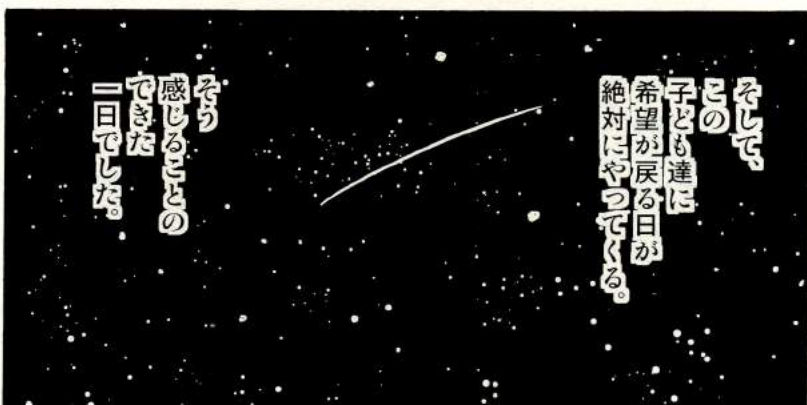
心から  
嬉しかった。



こんな  
状況の中でも、

子ども達が、  
他人を思いやる  
優しい気持ちを持って  
生きていることを  
実感でき、

僕にとっても  
記念すべき  
30代の  
始まりと  
なりました。



そして  
この  
子ども達に  
希望が戻る日が  
絶対にやってくる。

そう  
感じるとの  
できた  
一日でした。



翌日、

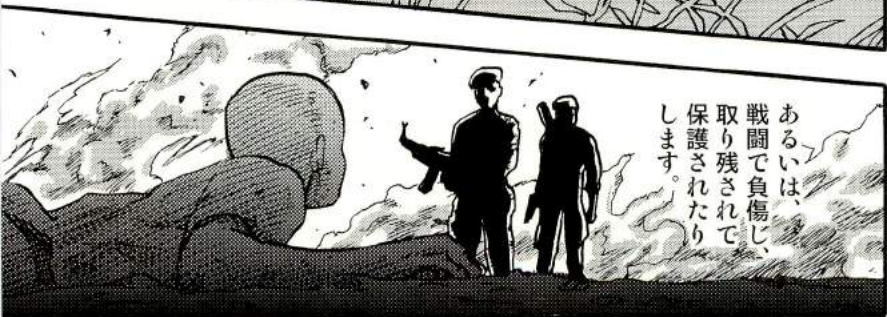
僕達は、  
現地のNGOの  
人たちが  
元・子ども兵に会って、  
話を聞くことが  
できました。



反政府軍に  
誘拐された  
子ども達は、

水汲みに  
行く隙に  
逃げ出したり、

政府軍との  
戦闘の際に  
紛れて  
逃げたり、



あるいは、  
戦闘で負傷し、  
取り残されたり  
保護されたり  
します。

運良く  
逃げ出して  
帰って来た  
子ども達の  
ほとんどは、

ヒュー

何日も  
飲まず食わずで  
衰弱していたり、

ヒュー

数十キロの道のりを  
裸足で歩いたために、  
足の裏がボロボロに  
なっていました。



ヒュー

ヒュー

ニギッ



保護された  
子ども達は、

「チャイルド  
フロテクション  
ユニット」という  
政府や軍の施設に  
集められます。

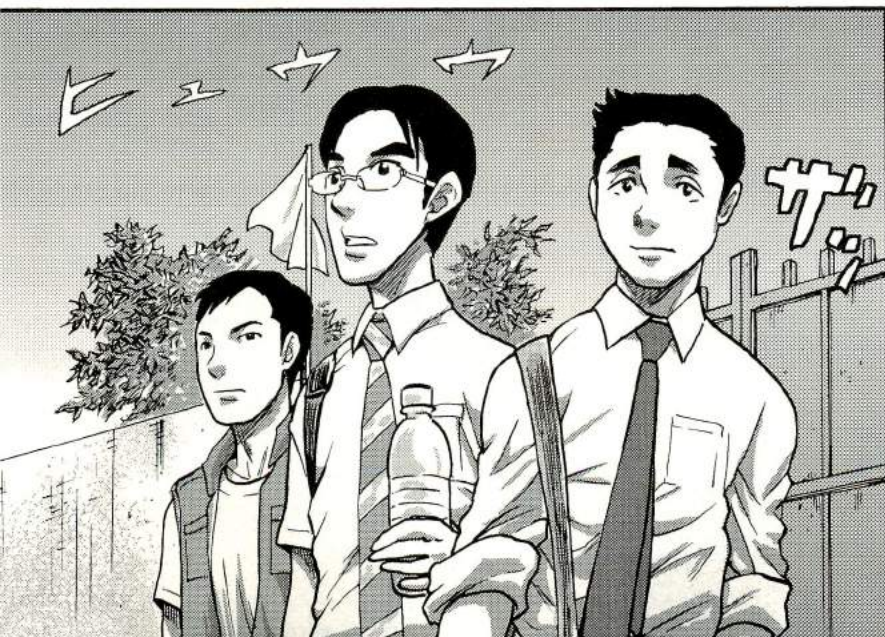


そこで  
治療を受け、  
食事や衣服などを  
支給され、

聞き取り  
調査を受けた後に、  
グル市内の  
リハビリ施設へと  
送られます。

ここで  
二週間〜一年を  
過ごし

その後、ようやく  
自分の村へ  
帰ることが  
できるのです。





グスコは、  
1994年に設立され、  
たくさんのお子とも兵を  
収容しています。

ここでは  
食事の提供だけでなく、  
リハビリテーション  
ゲーム、ダンス  
音楽などの  
レクリエーション

グスコ責任者  
ジュリアスさん

その他  
自転車修理や  
刺繍などの  
職業訓練を  
行つて、

社会復帰を  
サポートして  
います。

この時も  
200名以上の  
子ども達が  
収容されて  
いました。

僕達はここで、  
スタッフの方や  
子ども達に  
インタビュウを  
する事が  
できました。



# アピヨさん(23歳)の体験

(仮名)

私は、

1994年の  
ある日  
夜八時頃……



以来、九年間  
兵士として  
戦って  
きました。



自宅  
で  
寝ているところを  
LRAに襲われて  
誘拐されました。

13歳の時  
でした

部隊の中で  
子どもを  
生み……

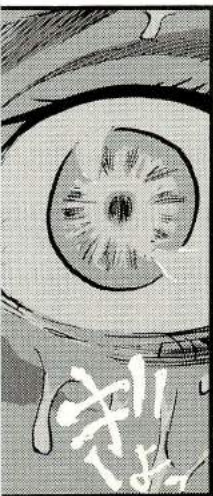


その間に、  
大人の兵士と  
無理やり  
結婚させられて、



赤ちゃんを  
抱えたまま、  
隣国のスーダンまで  
何十キロもの道のりを、

歩いて移動  
しなければ  
なりません。





上官に殴られて  
無理やり  
歩かされました。

途中で  
「疲れた」とか  
「お腹が空いた」と  
言うのと、

ギョ



私と同じ  
小さな  
子どもを連れた  
少女兵が、

私が一番  
怖かった事は、

フ



衰弱して  
歩けなくなり...

何...  
何...?





殺された  
ことでした。




そのまま  
置き去りにして  
敵に捕まると、  
情報を  
漏らしてしまっ  
という理由で、

私が知っているだけで、  
100名以上の仲間や  
その子ども達が  
命を奪われました。

## アルムさん(16歳)の体験

(仮名)



私は、  
2002年の  
ある日  
夜七時頃、

自宅で  
誘拐  
されました。





それから  
兵士になり  
大人の盾として

最も危険な  
前線で  
戦わされ  
ました。



男の子は、  
部隊に入って  
数ヶ月で  
銃を渡して  
もらえるので  
ですが、

女の子は、  
なかなか銃を  
持たせて  
もらえないので、

怖くて怖くて  
たまりません  
でした。





次々に  
殺されて  
いきました。

そして、  
私の目の前で、  
仲の良かった  
たぐさんの  
友達が





今でも、

その友達が  
夢に  
出てきて、

よく  
眠れません。

できません  
でした。

怖くて  
なかなか  
逃げ出すことが

上官からは、  
「部隊から  
逃げ出すと  
政府軍に  
殺されるぞ」と  
と教え込まれていたので、

守

は

# マーガレットさん(21歳)の体験

(仮名)

私は、  
1996年、  
13歳の時に  
誘拐されて、

それから  
八年間、  
兵士として  
武器を  
持たされ、

戦わされて  
きました。







そして、  
無理やり  
大人の兵士と  
結婚させられ、  
子どもを  
出産しました。



銃撃戦が  
繰り広げられ

たくさんの  
友達が傷つき、  
殺されて  
いきました。



子どもは今年  
一歳に  
なりますが、

この子には、  
将来  
医者になつて

戦闘で傷ついた  
子ども達を  
治療してほしいと  
思っています。



だから  
小型武器を  
もう  
これ以上、  
私達の国に  
持って  
こないで  
ほしいのです。

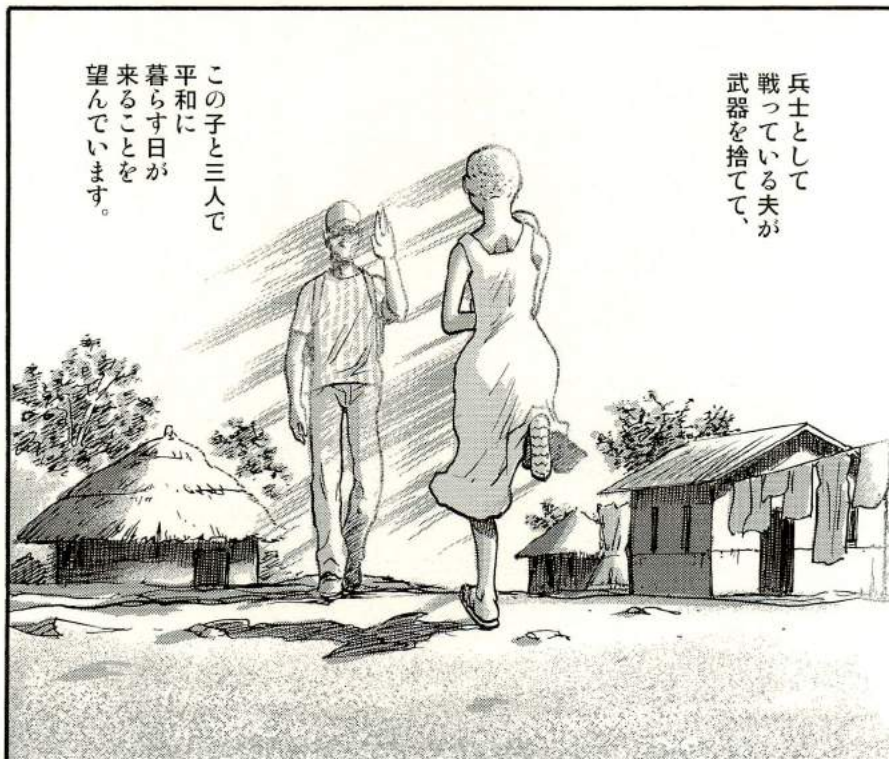


子どもでも  
扱える  
小型武器が  
存在する  
限り、  
誘拐は  
なくなり  
ません。



いつの  
日か、

そして、




兵士として  
戦っている夫が  
武器を捨てて、

この子と三人で  
平和に  
暮らす日が  
来ることを  
望んでいます。



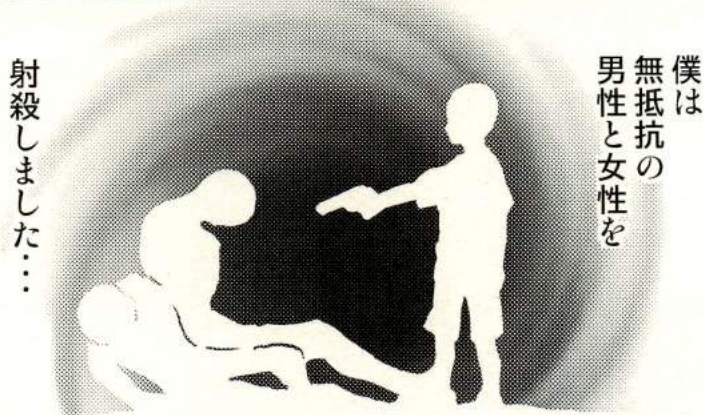
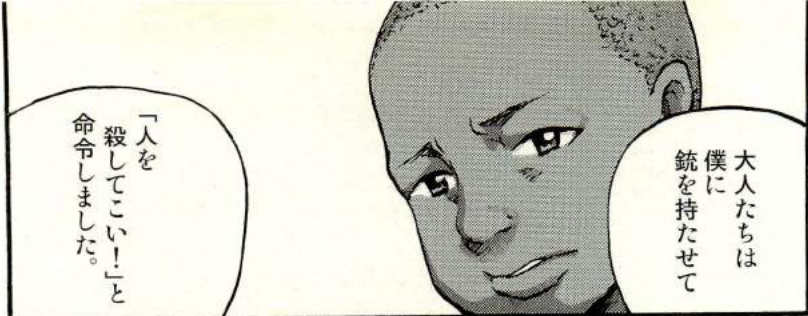
# オチエン君(12歳)の体験

(仮名)



僕は  
リラ地区で  
誘拐され、

部隊に  
連れて行かれ  
ました。







どうして  
先生に…？



僕は…  
学校の  
先生に  
なりたい…



オチエン君の  
瞳は、  
12歳とは思えない程  
力強く、



少し前まで  
兵士だったとは思えない  
優しさを  
感じました。



僕は  
算数や  
理科よりも

『より良い  
未来を作って  
いくことの  
大切さ』  
を教えたい。



そして  
僕が体験  
したことを  
子ども達に  
二度と  
させたくない  
んです。







そんな  
子ども達に  
本来の笑顔  
を取り戻して  
もらうのは

容易な  
事では  
ありません。



親を  
殺したり、

生まれ  
育った村を  
襲撃し、  
略奪や  
焼き打ちを  
するなど：



信じがたい  
体験を  
強いられた  
子ども達が  
たくさん  
います。




でも、  
ここで働く  
私達は、

子ども達に  
昔のような  
笑顔が  
戻ってくる事を  
信じています。

私達が  
そうでなければ、  
子ども達が  
立ち直ることは  
できないのです。






ここに  
収容されて  
来たばかりの  
子どもは  
大人を  
怖がりますし、

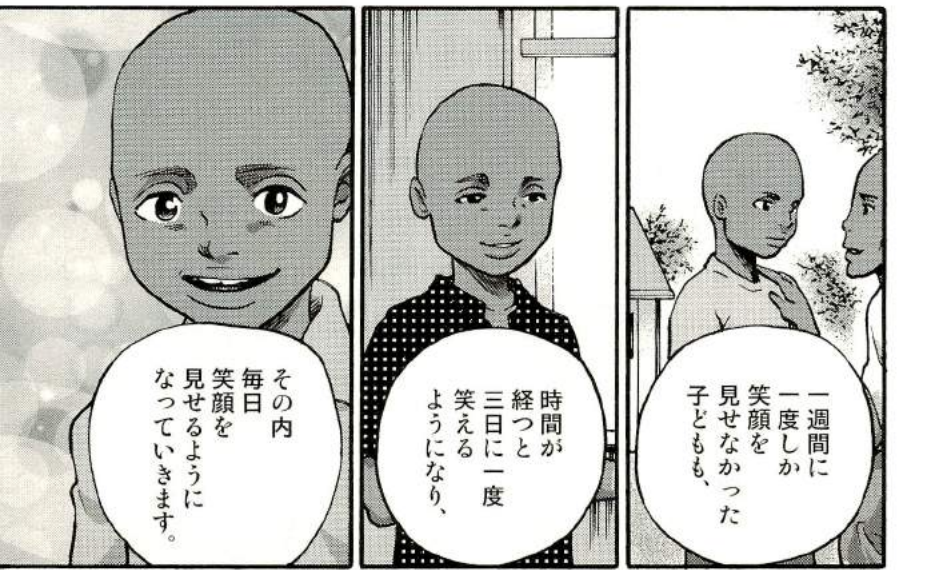
言葉も  
発しません。

顔も  
硬直していて  
表情が  
ありません。



でも、  
毎日  
接していると  
ほんの  
一瞬ですが、

笑顔  
を見せて  
くれるように  
なります。



一週間に  
一度しか  
笑顔  
を見せなかつた  
子どもも、

時間が  
経つと  
三日に一度  
笑える  
ようになり、

その内  
毎日  
笑顔  
を見せて  
なつていきます。





その姿を見て、  
胸に熱いものが  
こみ上げてきました。



また、  
ウガンダでは、  
非暴力手段に  
よって、紛争を  
解決しようとする  
人々にも出会えました。



イギリスの  
植民地だった  
ウガンダは、  
キリスト教徒が  
多いのですが、  
同じ  
キリスト教徒でも  
宗派の違いから  
対立が続いていました。

しかし、  
長年続く戦争による  
人々の苦しみを前にして  
彼らは、分裂よりも  
平和実現のために  
団結する道を選び、  
「アチョリ宗教者  
平和創設委員会」が  
結成されたのです。

ACHOLI RELIGIOUS  
PEACE INITIATIVE

後に  
イスラム教や  
民族宗教の  
指導者なども  
参加し、

まさに  
インター  
フェイス  
(国際化組織)  
となりました。

彼らの  
オフィスを  
訪れた時に、

あるものに  
心を  
奪われました。



**STOP FIGHTING**  
**START TALKING**

争うのは もう やめよう  
対話を 始めよう

STOP FIGHTING  
START TALKING





毎年12月には、  
様々な信仰を  
持つ人々が集まり、

この  
スローガンを掲げ、  
ピースマーチ  
(平和の行進)を通して  
地域住民に  
語りかけます。

**START  
TALKING**

**STOP  
FIGHTING**



皆さんが願う  
平和な  
ウガンダ(世界)は、  
どのような  
ものでしょうか。





自分たちが  
大切にしたい  
素晴らしい日々。  
それは、

仕事  
があり、

家族と  
ご飯が  
食べられ、

平和が続き、  
町が発展  
していくこと。

それが、  
私たちの  
ビジョンです。



ボクは  
世界中の  
誰かが願う  
ビジョン(夢)  
だと思いました。

ウガンダと日本、  
この二つの国

そして、  
世界中の人たちが  
願うことは  
ただ一つ…

それは  
「平和」  
なのです。



ウガンダ人の  
NGO活動家  
リチャード氏。

サリドマイド児(※)  
として生まれた。  
彼の両手には、  
「障害」がありました。



※母親の服用した薬の副作用により、腕が無かったり、手が肩から生えて生まれたきた身体障害児のこと。

彼は、  
持つて生まれた  
障害のせいで  
学生時代に  
友人たちから  
「いじめ」を受け、

それは  
とてもつらく  
悲しいもの  
だったと  
話してくれました。

しかし、  
差別に対して  
怒りや憎しみで  
復讐するのではなく、

社会から  
差別をなくす  
活動を  
していました。



どのような  
障害を持っている人でも、  
社会参加ができるよう  
支援を続け、

また、  
小型武器によって  
障害者となった人が  
数多くいることを知り、  
小型武器を規制する  
活動も展開していきました。



## その後

ウガンダで  
62のNGOが加盟する  
「ウガンダ小型武器  
行動ネットワーク」  
(UANSWA)を結成。

**UANSWA**  
**EAANSWA**

東アフリカ10カ国に  
同様の組織が  
設立されると、  
それらを連合する、  
「東アフリカ小型武器  
行動ネットワーク」  
(EAANSWA)の活動へと  
発展させていったのです。

彼に、人と人、そして  
団体と団体を結びつける  
秘訣を聞いてみました。





設立の背景や  
目的も違うのだから  
価値観や考え方が  
違って当たり前。

それぞれの  
個人や団体が  
全く違う存在で  
あることを  
理解すること。

ネットワークを  
つくるために  
大切な鍵……  
まずは



そして  
次は、

そんな  
価値観や  
考え方が  
違う物同士の  
中にも、

「共通して  
実現したい  
コトがある」  
と信じていることが  
大切なんだ。





みんなが  
何か同じものを  
めざして  
いることを  
イメージして  
いると、  
そのうちに、  
必ずはつきりと  
してくる。



それは  
「平和」という  
目的かも  
しれないし、

武器規制  
という願いや  
目標かも  
しれない。

具体的で  
なくても  
いいんだよ。



そうなると  
ネットワークは  
自然とできて  
くるものだよ。



すると  
次第に

他人や  
他団体の活動が  
他人事とは  
思えなく  
なってきた、

他の活動の成功を  
まるで  
自分のことのように、  
喜べるように  
なるんだ。







元・子ども兵の  
コマケチ君。  
彼には、将来  
「お医者さんにな  
りたい」とい  
う願いがあります。

彼が  
お母さんの病院へ  
お見舞いに行った  
あの時以来、



お母さんが  
会ってくれないらしく

人の命を救う  
立派なお医者さんにな  
って、

お母さんに  
会いに行こうと  
考えたのです。



しかしながら、  
彼を取り巻く  
環境下では  
勉強もできません。

ねえ、

お医者さんに  
なるには  
どうしたら  
いいの？

勉強も  
大事  
だけど、  
医者に  
なりたくて  
という願いを  
持ち続ける  
ことだよ。

そう口にしながら、  
願いを持ち続けることが  
一番必要なのは、  
先進国の  
人間なんじゃないだろうか  
……  
と感じていました。

日常生活の中で、  
国内外問わず  
毎日伝えられる  
悲惨なニュースの数々。

何度も耳にする内に  
私達は無意識に  
この状況を  
受け入れていないで  
しょうか。

原因を現代社会や  
誰かのせいにして  
解決をあきらめて  
ないでしょうか。

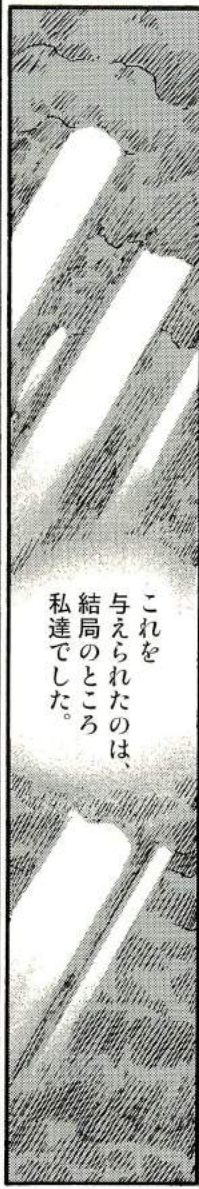
けれども  
紛争の中の  
あの人達は、  
未来をあきらめて  
いませんでした。



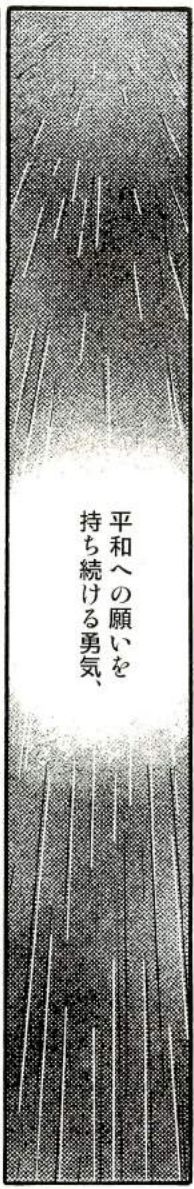




僕の心は  
決まりました。



これを  
与えられたのは、  
結局のところ  
私達でした。



平和への願いを  
持ち続ける勇氣、





当時の  
テラ・ルネッサンスは  
資金的な余裕が  
まったくない状態  
だったようで、  
問題は山積みでした。

うーん…

お金の件は  
ボクが  
なんとか  
するから

小川君  
一緒に  
やろうよ！

にっこり

鬼丸君は  
「やると  
決めたらやる」  
言行一致の  
人間なのです。

あははは



それから  
約二年  
掛かって  
準備を整え、  
2005年に  
テラ・ルネッサンスの  
職員となり、  
すぐに  
ウガンダへと  
飛び立ちました。

でも、今  
振り返ってみて、  
あの決断を  
してよかった、



心から  
そう感じて  
います。



「鬼丸は  
後先を考えずに  
興味だけで  
活動している」  
と言われても  
仕方がなかったと  
思います。



今  
思えば、

お金も人も  
何もかも  
不足している  
状態でしたので、  
無謀な決断  
だったかも  
しれません。



## 4. ウガンダからのメッセージ



ボク達が  
元子ども兵の  
社会復帰の  
サポートを  
始めて……



三年が経過



元・子ども兵達  
から

たくさんさんの事を  
教えて  
もらっている。

ハリエツト!



2005年から  
サポートしている  
ハリエツト(仮名)  
24歳。

12歳の時に、  
LRAに誘拐され、  
九年間も  
兵士として  
戦ってきた。







彼女の心に  
深く残って  
いるのが  
お父さんの事。

LRAが  
彼女の住む村を  
襲撃した時に、  
お父さんは  
彼女を抱きしめて  
守っていた。



小川に  
その体験を  
話した時、  
彼女の表情は、  
とても暗かったようだ。



彼女に  
絵を描いて  
もらった  
事がある。



彼女は腕の中で  
その光景を  
見ていた。



ところが、

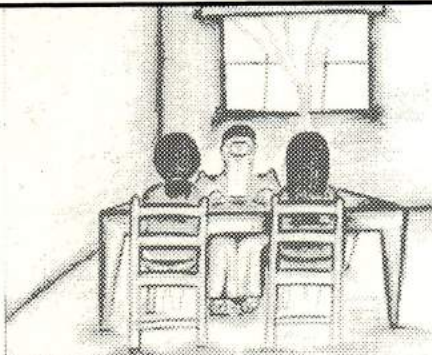
LRA兵士の  
放った銃弾が  
お父さんの頭を  
貫通してしまう。

ひとつは  
「過去」を  
テーマに描いたもので、



戦場での  
戦闘シーンを  
描いていた。

もうひとつは  
「希望や未来」を  
テーマに  
描いたもので、



この施設で学んだ  
技術を使って、  
洋裁店を  
開いている姿が  
描かれていた。

その店の収入で  
自分の子どもを  
学校に通わせる事が、  
彼女の願いだった。

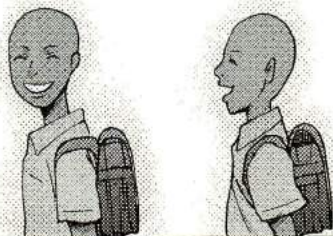


現在、彼女は、  
私たちの  
支援によって  
洋裁店を  
営んでいる。

ミシン二台の  
小さなお店で、  
一日に約700円の  
売上を  
上げるまでになり、



子ども達を  
学校に  
通わせる事も  
できるように  
なった。



ウガンダ北部では  
人口の八割が  
一日1ドル以下で  
生活している事を  
考えれば  
彼女の収入の  
大きさがわかる。



でも、  
もっと大切な  
事がある。



それは  
彼女が、  
「働く意味」を  
知っている  
ことである。



「働く」とは  
「傍」にいる人を  
自分の技術や  
存在によって  
「楽」にしてあげる  
事だと聞いた  
ことがある。

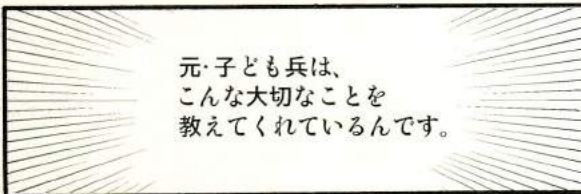
だとするならば  
彼女は、自分の学んだ  
洋裁の技術を使って、  
お客様に貢献し、  
愛する子ども達を  
養って、  
その事に、彼女自身が  
喜びを感じている。





働くということ  
それはお金を  
稼ぐことや  
キャリアアップの  
手段だけではない。

自分の命を  
使って、  
自分と他者を  
輝かせることの  
できる  
すばらしいもの。



元・子ども兵は、  
こんな大切なことを  
教えてくれているんです。



日本の  
子ども達との  
交流が、

元・子ども兵に  
好奇心や  
気付きを与え、  
心の扉を開く  
きっかけに  
ならないですかね  
……

いいかも！



ある時  
現地の  
カウンセラーから  
こんな  
グッドな提案が  
ありました。







タイミング良く  
その生徒から  
元・子ども兵に  
向けたビデオレターを  
作りたいという  
提案がありました。



丁度その頃、  
僕は  
ある中学校で、  
半年間  
子ども兵を  
テーマにした授業を  
担当していたのですが、



そして、僕は  
再びウガンダを  
訪れました。

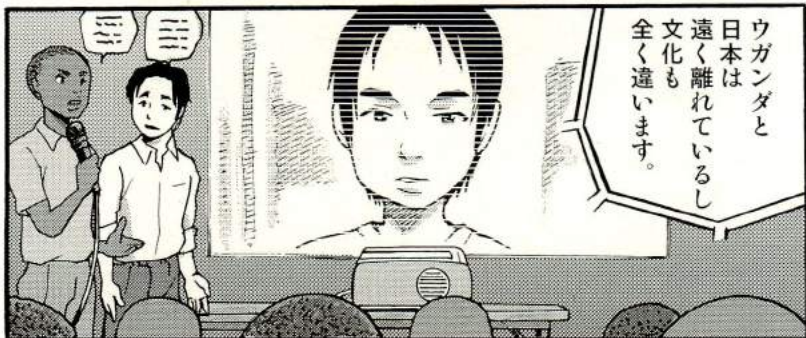
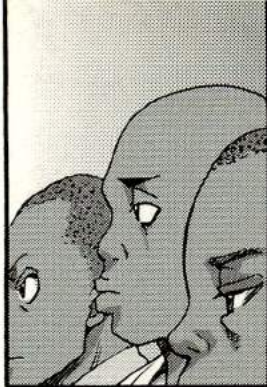
ビデオレター上映会



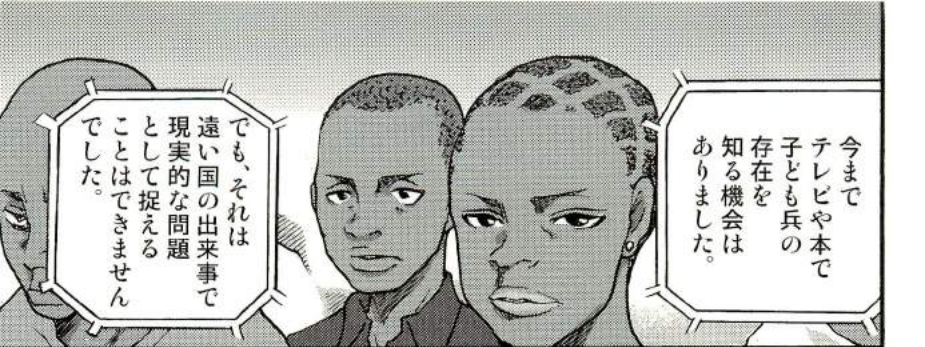
それは、  
自分達が  
何に気付き  
何を  
学んだのか

学んだ相手に  
伝えないと  
いけないと  
考えたから  
でした。



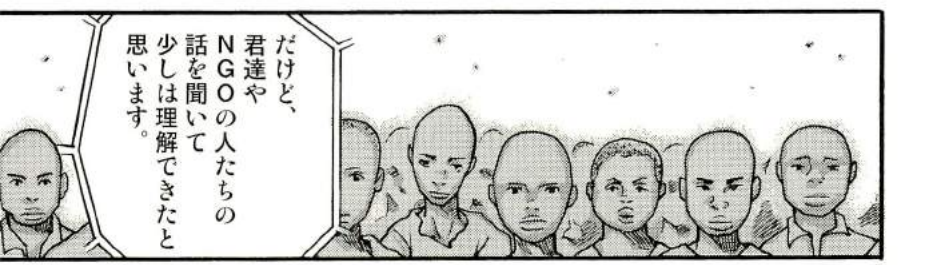




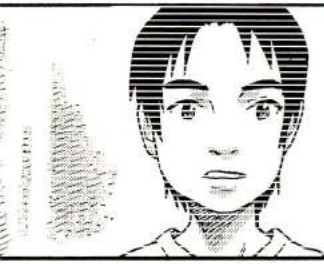


今まで  
テレビや本で  
子ども兵の  
存在を  
知る機会は  
ありません。

でも、それは  
遠い国の出来事で  
現実的な問題  
として捉える  
ことはできません  
でした。




だけど、  
君達や  
NGOの人たちの  
話を聞いて  
少しは理解できた  
と思います。

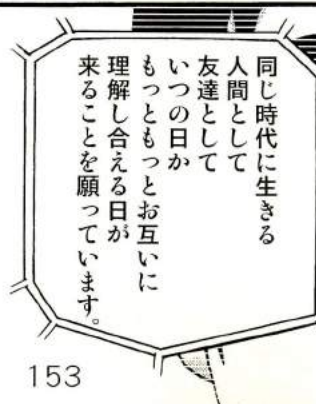


どこの国にも  
たくさんの方々の  
問題があると  
思います。

そんな中で  
精一杯  
生きることが  
今、私たちに  
できることだと  
思います。



私たちは  
同じ時代を  
生きている。



同じ時代に生きる  
人間として  
友達として  
いつの日か  
もっともっとお互いに  
理解し合える日が  
来ることを願っています。



やはり  
同世代の  
子どもからの  
メッセージは、  
新鮮で興味深い  
ようだ……

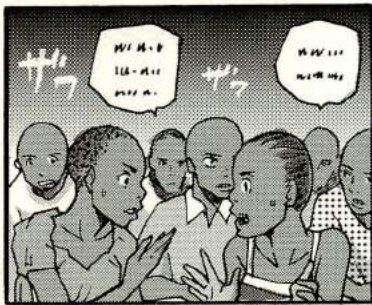
遠く離れた  
異国の子ども達から  
メッセージが  
届くなんて、  
想像もしてなかった  
だろうな。



話は変わりますが、

ビデオレターを  
観ていた  
元・子ども兵が、

驚いている  
場面が  
ありました。



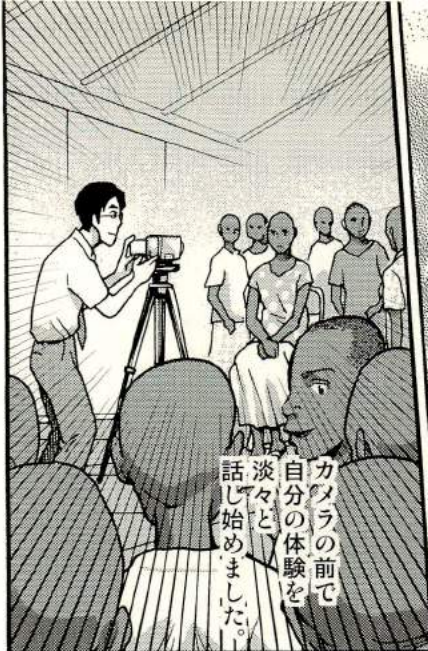


何に  
驚いたのかと  
いうと、  
日本に年間  
約三万三千人もの  
自殺者が  
いることでした。

日本のような  
豊かな国で  
なぜそんなことが  
起こるのか  
理解できなかつたのです。

日本の  
子ども達に  
メッセージを  
送りたいん  
だけと…





カメラの前で  
自分の体験を  
淡々と  
話しました。

ほそほそと  
一言二言しか  
話をしなかつた  
子ども達が

インタビューしても  
うつつむき加減で



自分の体験を受け止め、吐き出す…  
前向きに生きていく  
小さな一歩を踏み出したのです。



日本の  
子ども達に  
メッセージが  
ある人は？





日本では  
いじめや  
自殺で  
悩んでいる人が  
たくさんいます。

という  
ビデオレターの  
中学生に対し、



日本でも  
苦しんでいる  
友達が  
いるんだから、

自分も  
がんばろうと思う…  
だから日本の  
みんなも一緒に  
がんばって下さい。

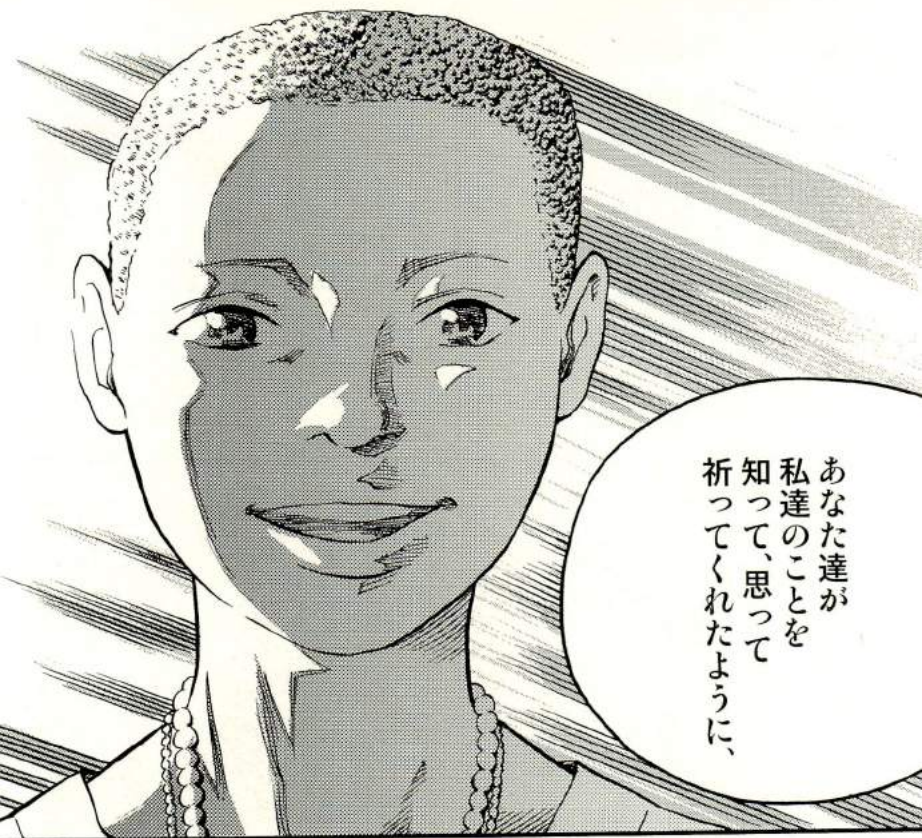


だから私は  
決めました。



また、別の  
女の子は、

ビデオを観て  
あなた達の  
国にも問題が  
あることが  
わかりました。



あなた達が  
私達のことを  
知って、思っ  
て祈ってくれたように、



正直、  
この二人の  
コメント  
には



私も  
日本に住む  
すべての人が  
家族と一緒に、

そして豊かに  
幸福に  
暮らせるように  
祈ります。  
それを毎日  
続けます。

びつくり  
しました。



拉致や紛争の中で  
残虐行為を強いられた

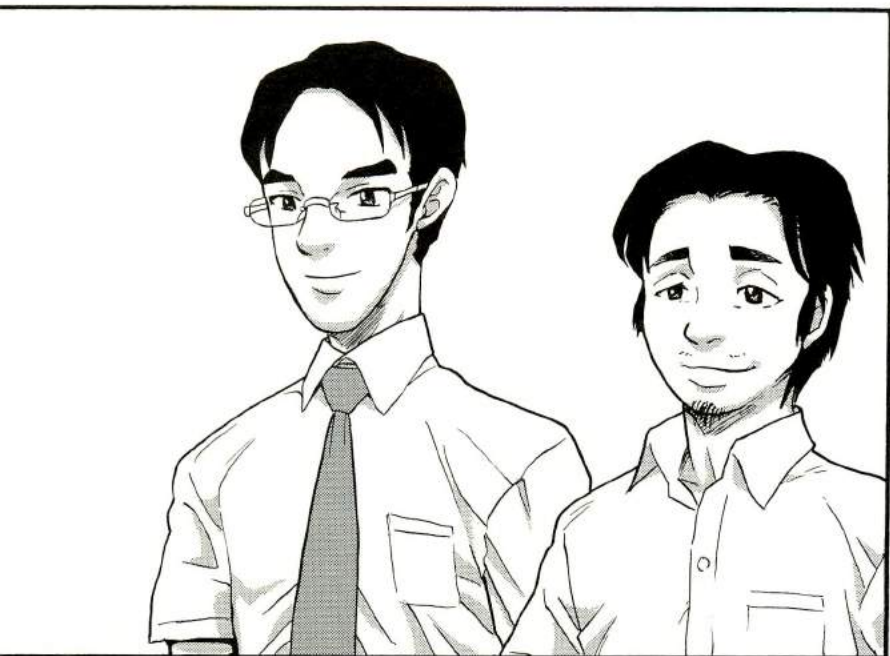
絶望の淵に  
いるはずの  
子ども達が  
他国の  
問題に対して  
励ましの言葉を  
送っている。



間違いなく  
彼や彼女の  
中には、

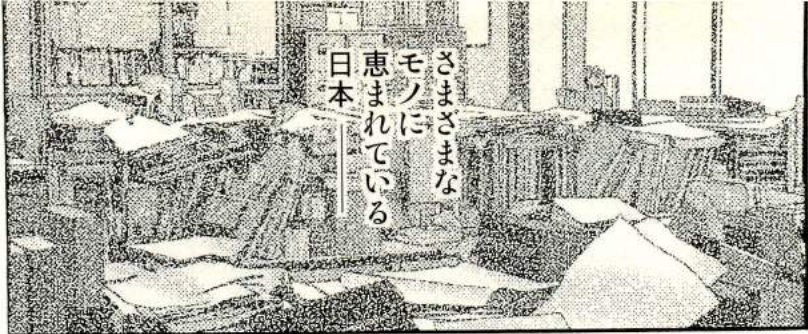
他者に  
想いをはせる  
能力が  
あるのです。





本当に支援が必要なのは  
ウガンダ？  
それとも日本？

と考えて  
しまうくらいの  
衝撃を  
受けました。



さまざまな  
モノに  
恵まれて  
いる  
日本



そこに住む  
私達が、  
他者どころか  
大切な家族や  
友人、恋人に  
対して、

一体  
どこまで

しっかりと  
想いを  
はせることが  
できている  
だろうか……

送信

OK

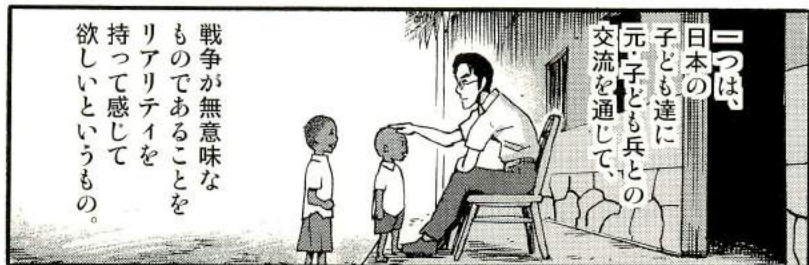
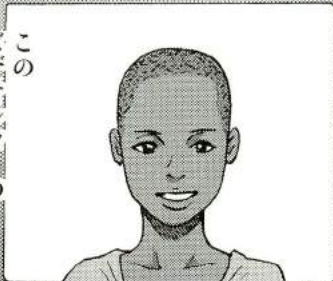
MAIL







このビデオレターの交流には二つの目的がありました。



一つは日本の子ども達に元・子ども兵との交流を通じて、

戦争が無意味なものであることをリアリティを持って感じて欲しいというもの。



もう一つは、

元・子ども兵のトラウマケアに繋がるのではないかと。いうものでした。



この交流がトラウマケアに効果的かどうかは科学的にはわかりませんでした。

でも、

はるか遠くの  
日本という国の  
子ども達が、



自分達のことを  
知ってくれた……

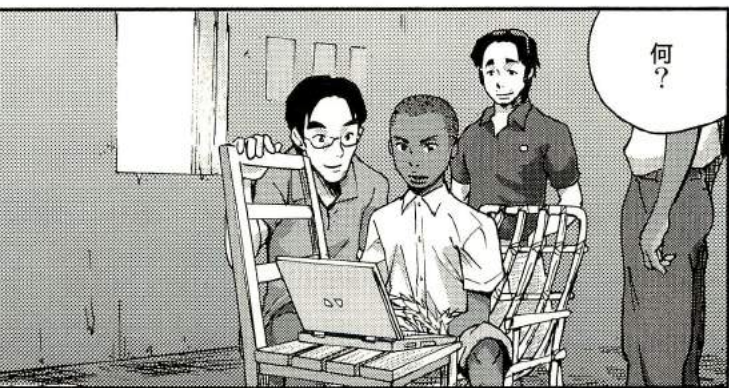
寄り添おうと  
してくれた……

語りかけようと  
してくれた……

その事実が  
彼や  
彼女にとって、

大きな  
心の支えと  
なることが  
わかったのです。







コマケチ君の  
体験を聞いた  
日本の中学生  
数名の  
特別な  
メッセージを  
見せました。



事実は  
消せないとしても、  
あなた自身の  
意志で殺したの  
ではないのだから、

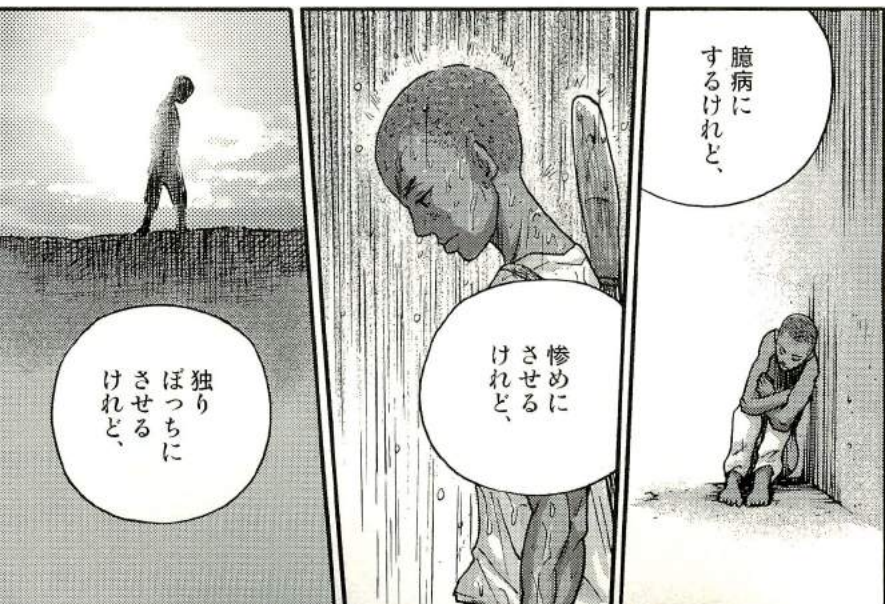
どうか  
自分を  
責めないで  
ほしいのです。



あなたの国は  
戦争と常に  
隣り合わせて、

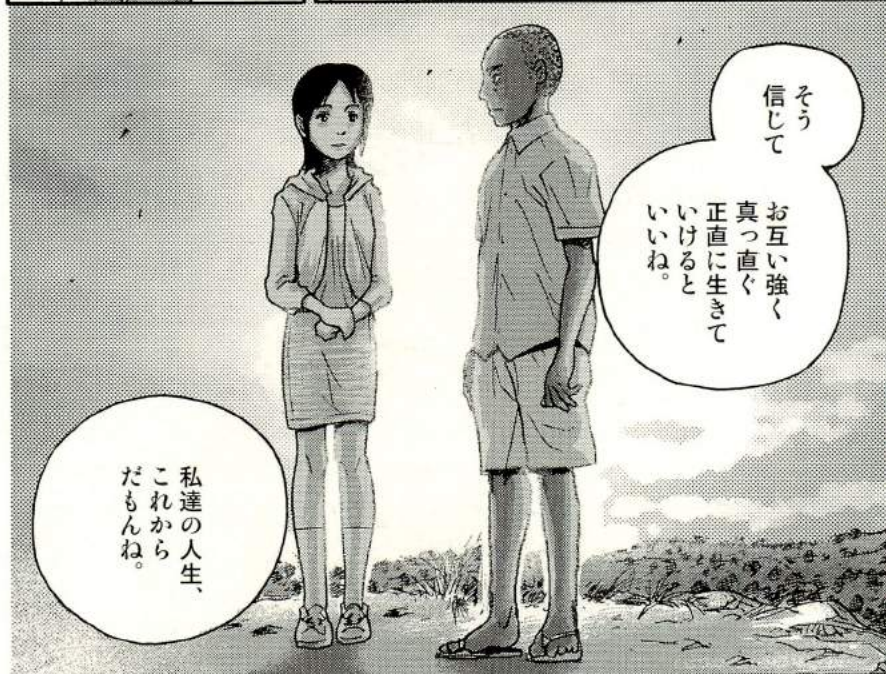
毎日毎日  
人間同士の  
殺し合いがあつて、  
辛い体験  
をしたね。







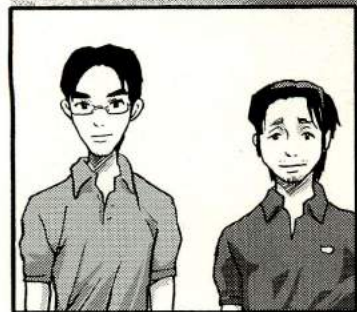
でも、  
道はいつでも  
自分で  
切り拓いて  
いける。



そう  
信じて

お互い強く  
真っ直ぐ  
正直に生きて  
いけると  
いいね。

私達の人生、  
これから  
だもんね。



自分次第  
なのかも  
しれないね。

楽しく  
生きるのも、  
つまらなく  
生きるのも、



この  
女の子は  
メッセージの中で、

将来  
なりたい  
夢が  
あるけど、

自分の実力で  
夢が  
実現するの  
か  
わからない。

と言って  
いたのですが、


その言葉を  
聞いた  
コマケチは、

きつと、

その夢は  
叶うと  
思うよ。

だって、  
僕達  
人間には、

未来を  
創る力が  
あるんだ。

A black and white manga-style illustration of a man with a serious expression, sitting on a wicker chair. He is wearing a white short-sleeved button-down shirt and dark trousers. In front of him is a laptop on a small table. He is holding a large, leafy plant in his hands. The background is a simple, light-colored wall.

こうしたい、  
こうなりたい、

こういう風に  
生きたい、  
こんなことを  
実現したい、

そう思って、  
一歩一歩  
歩いていけば、

必ず  
夢って叶う  
ものなんだ！



自分の母親の腕を切り落とすとすという信じられない体験をしたコマケチ



そう簡単に心が癒されることはないだろうと思っていたのですが、



前向きな気持ちをお口にし始めた彼を見て、

彼の中で、少しずつ何かが変わっているように思えました。

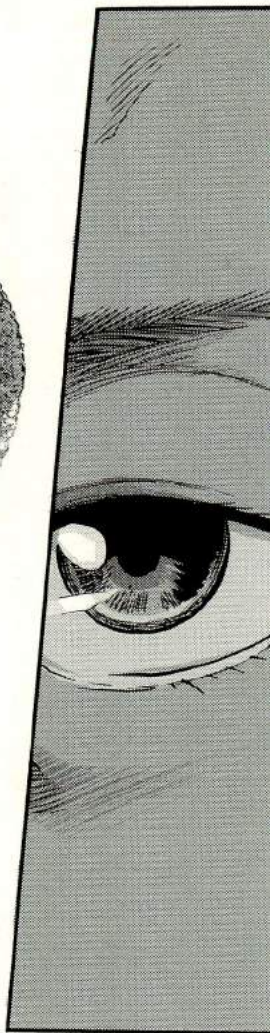


コマケチ

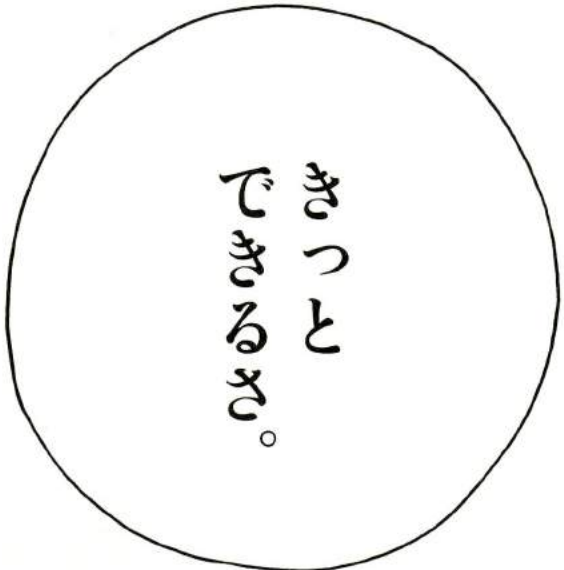
君も夢を実現できる？



ああ







きつと  
でてるわ。



私達の  
心の中には、

自分の人生や  
所属する団体や  
会社の未来、  
そして国や  
世界の未来を  
決める能力が  
備わっている。



でも、

私は  
あの人の  
ようには  
できない、

あんな事は  
今の私の  
能力ではできない、

私には  
無理だ。

そんな私達に対して、  
「そうじゃないよ」と  
コマケチは  
教えてくれたのです。



つい  
そんな事を  
言って、  
自分の  
可能性を  
閉ざしてしまう。





悲しい出来事ばかり  
耳にする  
ここウガンダ北部でも

未来に向けて  
頑張っている  
人達や、それを  
サポートしている  
人達と出会うと、

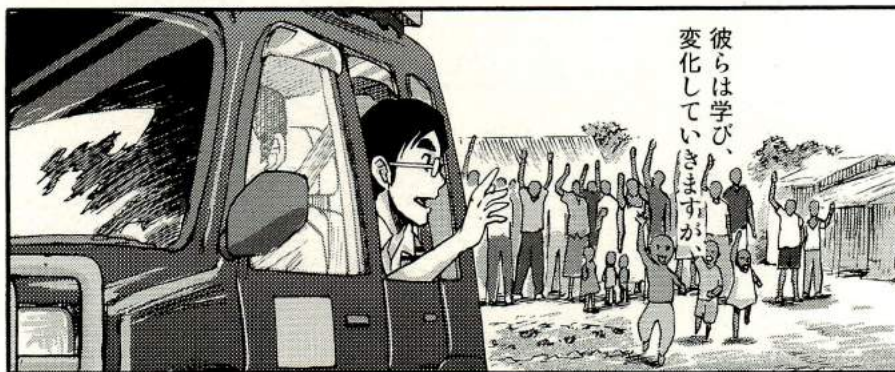
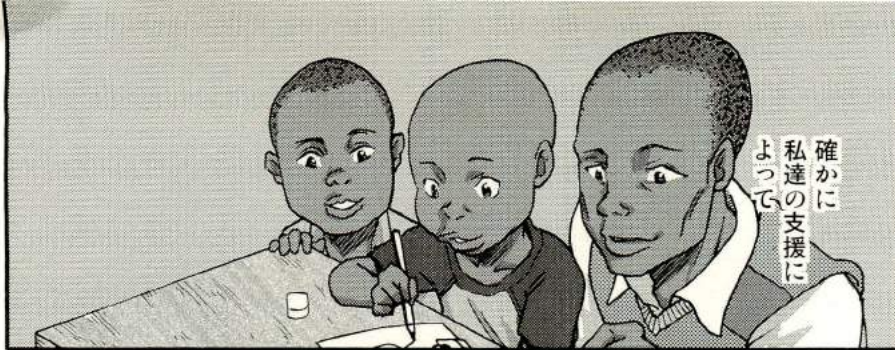
未来への  
希望が湧き、  
自分達も  
ここでの  
プロジェクトに  
全力を尽くそうと  
思えるのです。



それと、時々、  
誤解があるように  
感じるの、

「僕達は決して  
支援先の人達に  
『二方向的に与えている』  
わけではありません。」

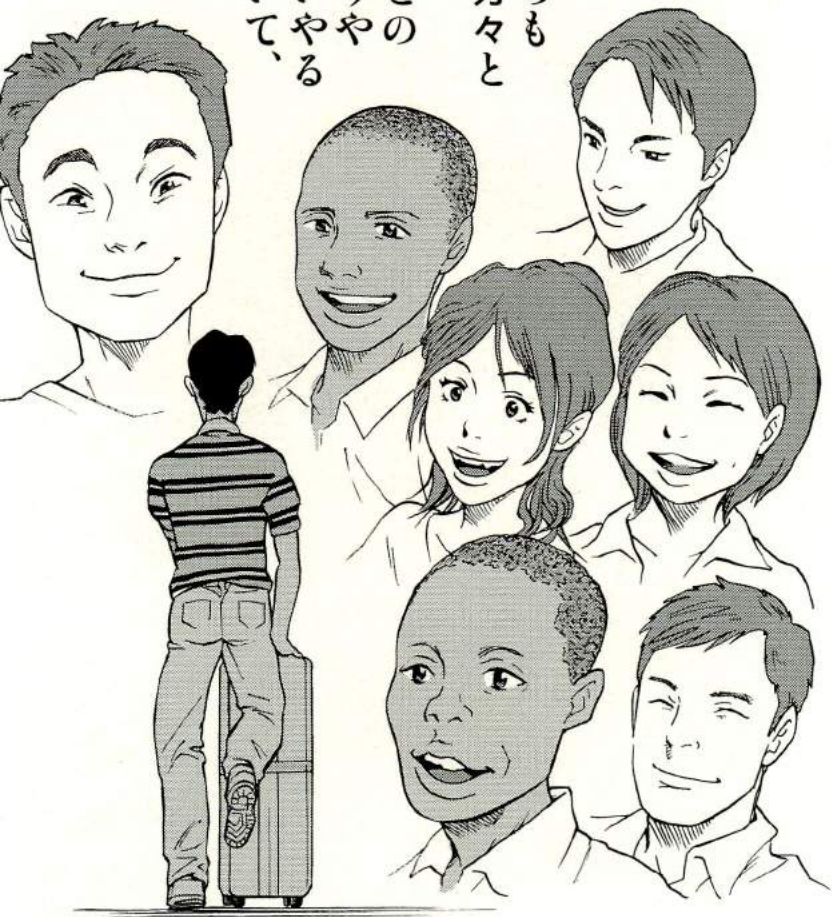






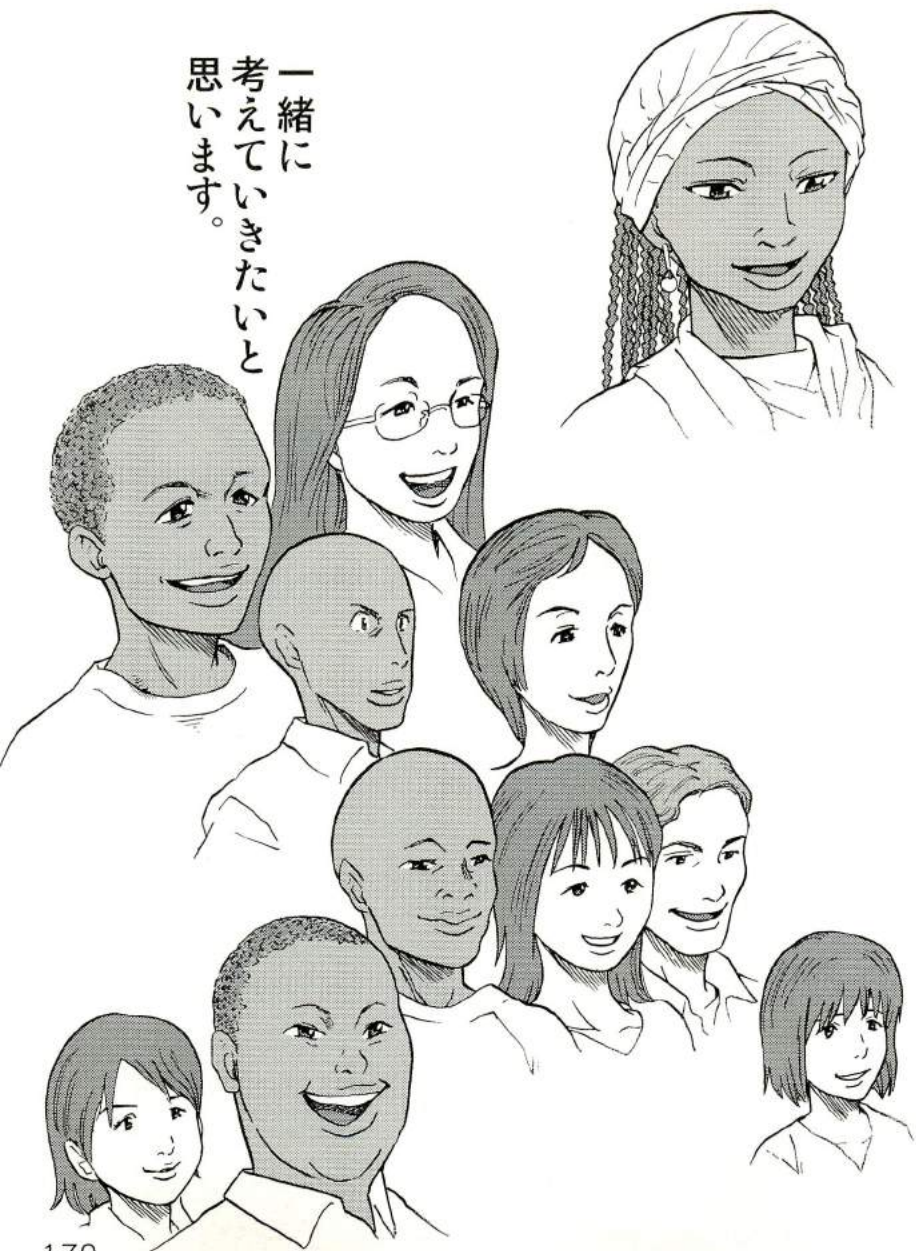


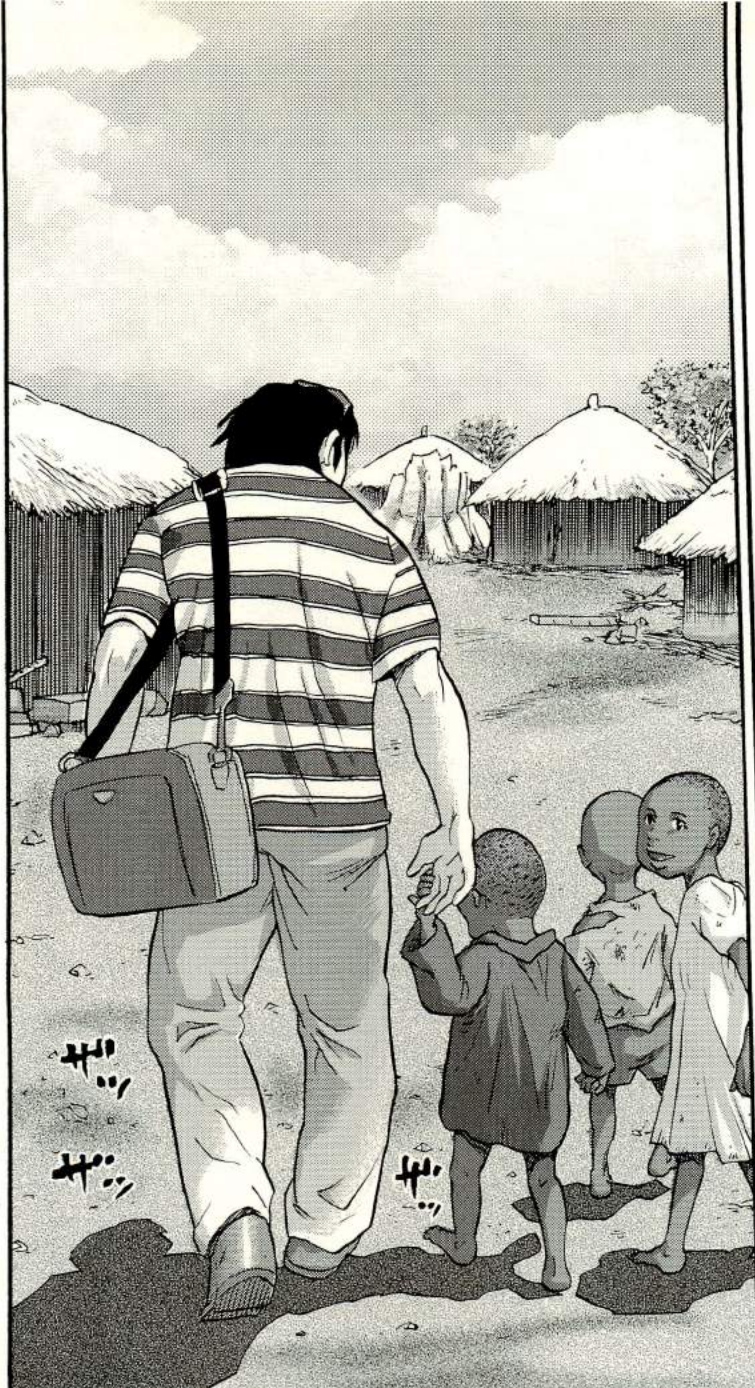
そして  
これからも  
多くの方々と  
人と人との  
つながりや  
人を思いやる  
心について、






一緒に  
考えていきたいと  
思います。











無力では  
ないので  
すから。





## 鬼丸昌也理事長プロフィール

(平成20年11月現在)

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事長  
日本小型武器行動ネットワーク運営委員会  
日本外国語専門学校国際ボランティア科講師

1979年、福岡県生まれ。立命館大学法学部卒。  
高校在学中にアリヤトネ博士(スリランカの農村開発指導者)と出逢い、  
『すべての人に未来をつくりだす能力(ちから)がある』と教えられる。  
その後、様々なNGOの活動に参加する中で、  
異なる文化、価値観の対話こそが平和をつくりだす鍵だと気づく。

2001年、初めてカンボジアを訪れ、地雷被害の現状を知り、  
「すべての活動はまず『伝える』ことから」と講演活動を始める。

同年10月、大学在学中に「全ての生命が安心して生活できる社会の実現」を  
めざすNGO「テラ・ルネッサンス」設立。

カンボジアでの地雷除去支援・義肢装具士の育成、  
日本国内での平和理解教育、小型武器の不法取引規制に関する  
キャンペーン、ウガンダやコンゴでの元・子ども兵の社会復帰支援事業を実施。

2002年、(社)日本青年会議所人間力大賞受賞。

地雷、子ども兵や平和問題を伝える講演活動は年140回以上。  
国内外を問わず精力的な活動を行っている。

著書に、

『こうして僕は世界を変えるために一步を踏み出した』(こう書房)、

共著に、

『ぼくは13歳 職業、兵士。』(合同出版)がある。



## 小川真吾理事プロフィール

(平成20年11月現在)

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事(ウガンダ駐在代表)  
日本小型武器行動ネットワーク運営委員

1975年、和歌山県生まれ。大阪工業大学卒。

学生時代、マザーテレサの施設でボランティア活動に参加、  
国際協力やNGOの活動を本格的に開始する。

1998年、青年海外協力隊員としてハンガリーに派遣され、  
旧ユーゴ諸国とのスポーツを通じた平和親善活動などに従事。

2002年よりNPO法人ネットワーク「地球村」職員として、  
アフガニスタンでの支援活動に携わる。  
ヨハネスブルクサミットなどの国連会議、世界社会フォーラム(WSF)、  
世界市民社会フォーラム(WCSF)などの国際会議に出席。

2005年にテラ・ルネッサンスの理事に就任。

現在、ウガンダ北部での元・子ども兵支援プロジェクトの  
現地責任者としてウガンダ職員14名と共に、  
91名の受益者に対する支援活動を展開している。

また、年に2回程度、日本国内で報告会を開催し、  
啓蒙活動を行っている。

鬼丸昌也・小川真吾 共著 『ぼくは13歳 職業、兵士。』(合同出版)

## テラ・ルネッサンス 概要

(平成20年11月現在)

名称	特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス	
代表者	理事長 鬼丸 昌也	
所在地	〒612-0031 京都府京都市伏見区深草池ノ内町5-23 内藤マンション105	
連絡先	TEL・FAX 075-645-1802	
URL	<a href="http://www.terra-r.jp">http://www.terra-r.jp</a>	
設立	2001年10月	
スタッフ	23名(日本6名、カンボジア3名、ウガンダ14名)	
活動地域	4カ国(カンボジア、ウガンダ、コンゴ、ラオス)	
活動内容	<p>&lt;カンボジア事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・除隊兵士社会復帰支援</li><li>・地雷除去支援</li><li>・井戸建設支援</li><li>・女性義肢装具士養成</li><li>・スタディ・ツアーの開催</li><li>・小学校建設支援</li></ul> <p>&lt;ラオス事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・クラスター爆弾の不発弾処理支援</li><li>・中学校建設支援</li></ul> <p>&lt;ウガンダ事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・元子ども兵社会復帰支援</li><li>・小型武器問題の啓発活動</li><li>・元子ども兵と日本の子どもたちとの交流(ビデオレターの交換)</li></ul> <p>&lt;コンゴ事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・元子ども兵社会復帰支援</li></ul> <p>&lt;啓発事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地雷や子ども兵に関する講演やワークショップ</li></ul>	



## テラ・ルネッサンス 年譜

---

- 2001 ・鬼丸昌也理事長が、大学在学中の2001年に、カンボジアを訪れ、地雷被害の問題を知り、多くの人に伝える為の講演活動を開始する。  
・「テラ・ルネッサンス」を設立。  
地雷除去資金供与、国内での地雷問題の啓発活動に取り組む。
- 2002 ・(社)日本青年会議所人間力大賞受賞。
- 2003 ・国際小型武器行動ネットワークに加盟。  
・世界子ども兵禁止連盟に加盟。
- 2004 ・ウガンダ、ルワンダにて、子ども兵、小型武器問題の現地調査を実施。  
・カンボジアで義肢装具士育成のための奨学金給付事業を開始。  
・JANSA(日本小型武器行動ネットワーク)設立に参加、運営委員に就任。  
・小型武器の不法取引規制に関するキャンペーンを実施。
- 2005 ・カンボジアで除隊兵士の生活再建事業を開始。  
・元子ども兵社会復帰支援事業開始、ウガンダ駐在スタッフを派遣。  
・カンボジアのバタンバン市へスタッフ派遣(～2005年8月)。  
・ウガンダのカンバラ市にウガンダ事務所を開設。  
・特定非営利活動法人格を取得。  
・『ぼくは13歳 職業、兵士。～あなたが戦争のある村で生まれたら～』  
(鬼丸昌也・小川真吾 共著)出版。
- 2006 ・ウガンダ・グル県に、元子ども兵の職業訓練施設「スマイルハウス」を開設。  
その後、引き続き3つの施設を建設。
- 2007 ・コンゴにて、子ども兵の現地調査を実施、現地NGOと提携し、  
元子ども兵社会復帰支援を開始。
- 2008 ・カンボジアへ駐在スタッフ派遣。  
・『こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した』  
(鬼丸昌也 著)出版。

## テラ・ルネッサンス 理念

---

### ■ヴィジョン(目的)

世界平和の実現=すべての生命が安心して生活できる社会の実現。

### ■ミッション(使命)

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活(簡素な生活)を実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

### ■活動理念

私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。

私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。

私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。





## 参考資料のご紹介

### 【書籍】



- ◆ **ぼくは13歳 職業、兵士。**  
**あなたが戦争のある村で生まれたら**  
著者／鬼丸 昌也、小川 真吾 出版／合同出版



- ◆ **こうして僕は**  
**世界を変えるために一歩を踏み出した**  
著者／鬼丸 昌也 出版／こう書房

### 【HP】

#### ◆ 外務省

ウガンダ共和国

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/uganda/index.html>





## あとがき

「子ども兵の漫画を描いてみませんか？」

インフィニティさんからこの話を聞いた時に、私は驚きを隠しきれませんでした。

というのも、私は数年前、『子ども兵』を題材にした漫画づくりを考えていたからです。

その時、元・子ども兵の体験談を読んで、その壮絶な内容に絶句し、子ども達の受けたありえない現実やその苦しみを表現することの難しさから、生半可に物語を作ることはできないと判断しました。

「何か平和を訴えることができる作品を作りたい」

平和原点の地 ヒロシマで生まれ育った私が、ずっと抱いてきた1つの想いが、今回、不思議にもこのような形で結実したのは本当に嬉しい限りです。

作品のテーマにもつながりますが、願いを持ち続けて行動していれば必ず叶うという事を、身を持って感じることができましたし、ウガンダでの取材を通じ、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。

そして、何よりも素晴らしい『行動する人達』と出会えたことは生涯の宝物です。

鬼丸さん、小川さんを始めとする、テラ・ルネッサンスの皆様、インフィニティの田原社長、またスタッフの皆様、そしてこれまで私に励ましを送ってくれた皆様に、心の奥底から感謝申し上げます。

ありがとうございました！

西原大太郎



Terra   
Renaissance





ぼくは13歳 職業、兵士。

〜ウガンダの子ども兵士が語ってくれたこと〜

映画 童兵(1991) 主人公(13歳)の自伝



感動コミックシリーズ「テラ・ルネッサンス」は、  
売上の5%を、  
NPO法人テラ・ルネッサンスさまの  
活動に寄付させていただきます。





# 『心を育てる』 感動コミックシリーズ



## 1 バグジー I

1,000円(税別)



## 2 バグジー II

1,000円(税別)

■■ ご注文は、下記にて承っております。 ■■

### ① ホームページ(PC用)

<http://www.kokorozashi.co.jp/kancomi/>

### ② ホームページ(携帯用)

<http://www.kokorozashi.co.jp/kancomi/m/>

### ③ FAX: 082-509-0334



また、アマゾンさま、楽天ブックスさまでも  
お取扱いいただいております。



## 『心を育てる』感動コミック VOL.3

# 一人ひとりに未来を創る力がある テラ・ルネッサンス I

---

### 発行日

2008年11月21日 [第一刷 発行]

### 著者

作: 田原 実 画: 西原 大太郎

### 発行所

株式会社インフィニティ  
〒733-0003 広島県広島市西区三篠町2-3-22  
TEL: 082-509-0333 FAX: 082-509-0334  
<http://www.kokorozashi.co.jp/>

### 印刷所

株式会社ニシキプリント

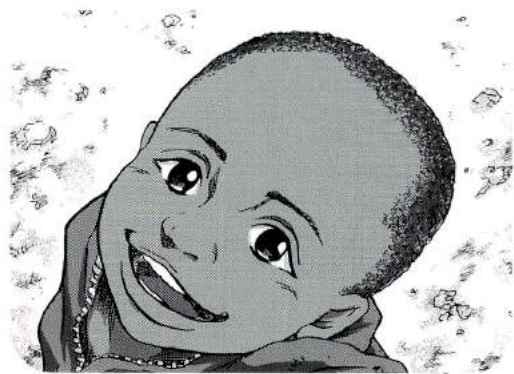
Printed in Japan

万が一、落丁、乱丁本がございましたら、弊社感動コミック事業部宛てにお送りください。  
送料は弊社負担でお取り替えいたします。  
また、本書の無断複写・複製は、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。

ISBN978-4-903758-02-2







**株式会社インフィニティ**







9784903758022

ISBN978-4-903758-02-2

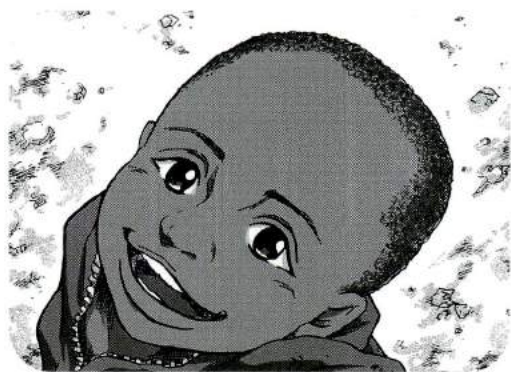
C0979 ¥1200E



1920979012004

定価: 本体1,200円(税別)

**株式会社インフィニティ**



ウガンダやコンゴでの元・子ども兵支援や、カンボジアでの地雷除去支援・  
日本国内での平和啓蒙活動を行っているテラ・ルネッサンス。

その活動は、理事長である鬼丸昌也さんの

**『私達は、微力ではあるが、無力ではない』**という想いから始まりました。

どんなに苦しく、大変な状況であっても、人間には他人に想いをはせる  
能力がある。未来を自分の力で創っていきたいという願いがある。

混迷の時代を生きていくために大切な『生きる力』が湧いてくる一冊です。